週刊 YEARBOOK

日録20世紀

1988
昭和63年

5|5
平成10年5月5日発行
(毎週1回発行)第2巻第17号
¥560
講談社

日本人「李恩恵」の正体

「リクルート事件」政・官・財の"醜悪"構造
アジアから急増！"じゃぱゆきさん"の悲劇
ソ連軍13万、泥沼のアフガニスタンから撤退！

一〇人の日本人失踪者と北朝鮮を結ぶ〝点と線〟
本名・田口八重子、三五歳。子ども二人
「李恩恵」は、なぜ拉致されたのか？

昭和55年以前に行方不明となった

この女性を知りませんか

- 年齢〜現在27歳から36歳
- 身長〜165センチ前後
- 顔のりんかく〜四角形
- 髪の色〜黒色
- まゆ毛〜一直線
- 皮膚の色〜浅黒い方
- 目〜大きく、二重まぶた
- 歯〜白くきれいで、虫歯はない、歯並びがよい
- メガネ〜かけていない（視力悪くない）
- 声〜太くてハスキー
- 足長〜25センチ前後

警察庁　※110番か、最寄の警察署、派出所等に連絡して下さい。

▲「李恩恵」の似顔絵入りのチラシ。警察庁は、このチラシ145万枚を全国に配布した。　共同通信社

完璧な日本語で「蜂谷真由美」をよそおい、大韓航空機858便を爆破した北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）の工作員・金賢姫に〝教育〟をしたのは、「李恩恵」と呼ばれる日本人女性だった。金日成総書記指導下の北朝鮮で秘密工作にかかわったとされる「李恩恵」をきっかけに暴かれた、国家的犯罪の内幕とは？

◀大韓航空機爆破テロの犯人、金賢姫（写真）の記者会見。この1月15日の会見で、彼女に日本語教育などをした日本人、「李恩恵」の存在が明らかにされた。　共同通信社

▲昭和53年頃、新潟県、福井県などの日本海側で、日本人男女が蒸発するケースが相次いだ。写真は京都府丹後町中浜で。　英伸三

事件三年後に特定された金賢姫の〝日本人教育係〟

実際、それは突然の発表だった。

昭和六三年一月一五日、前年一一月二九日に「大韓航空機858便」を爆破して逮捕された北朝鮮の特殊工作員・金賢姫（二六）が、ソウルで初の記者会見にのぞんだ時のことである。

涙ながらに「亡くなった方のご家族にすまない」と語った金賢姫に続いて、韓国の捜査員が、「金賢姫は日本女性と寝食をともにし、日本人に偽装する教育を受けた」「この女性は日本の海岸から北朝鮮に拉致されたようだ」と発表した。

この年韓国で開催されるソウル五輪を目前に、参加国に冷水をあびせるために北朝鮮が仕組んだとされ、乗員・乗客一一五人が死亡した爆弾テロ。それを起こした工作員の〝教育係〟が北朝鮮へ拉致された日本人だとしたら、日本の主権にもかかわる問題だった。

さらに、翌一六日、韓国の捜査当局は、金賢姫の供述をもとに、日本人偽装教育をしたのが「李恩恵」と呼ばれる「離婚歴があり二児を持つ女性」で、「昭和五四年頃に東京周辺の海岸から船で拉致され、北朝鮮で軟禁生活を送っていた」と発表した。

さっそく、警察庁は、「李恩恵身元割り出し調査班」を設置。似顔絵入りのチラシなど一四五万枚を全国に配布し、昭和五二年から五六年にかけて届け出のあった家出人を洗い直すことになる。

恩恵と金賢姫は、昭和五六年七月から一年八ヵ月間、平壌の招待所（秘密工作員用の施設）で同居。礼儀から交通機関の利用法、酒の勧め方や男の誘い方まで、日本の生活様式を微に入り細にわたって教えた恩恵だが、「酒を飲むと涙を流し」「顔には哀しみがあふれていた」という。

こうした金賢姫の告白などから平成二年になって浮かんできたのが、「李恩恵」の次のような人物像である——。

〈名前は「ちとせ」。東京周辺で育ち、高卒程度の学歴で水商売の経験がある。「馬鹿みたい」「やっぱし」が口癖で、歌手の山口百恵や加藤登紀子が好き。姉は埼玉に住み子どもがいて、兄はバングラデシュへの出張経験がある会社員〉

そして、平成三年五月一五日、ついに埼玉県警が、ある女性を「李恩恵」と特定する。東京・西池袋にあるキャバレー「ハリウッド」の元ホステス（源氏名が「千登瀬」）で、昭和五三年に二人の子どもを残して失踪した田口八重子さん（当時・三五歳＝発表時は匿名）。沈黙を守り続けた彼女の親族は、「微妙な年齢にある子どもたちのことを考えると、名乗り出られなかった」と捜査員に語った。

国内外で相次いでいた謎の失踪事件と北朝鮮

ところが、マスコミで過熱した〝恩恵さがし〟は、別の失踪事件にスポットライトをあてることになる。

「李恩恵」が失踪した昭和五三年は、福井、鹿児島、新潟で、続けてカップル三組が失踪。いずれも夕方から夜に、海岸から姿を消しており、警察が「外国機関による拉致の疑いあり」と見ていたこともあって、当初は失踪女性二人のいずれ

◎表紙　金賢姫に日本人化の教育をした李恩恵の似顔絵。　共同通信社

▲昭和38年5月11日、石川県志賀町の寺越さん宅の3人が行方不明になり、亡くなったと信じこんだ親族は葬式をすませる。しかし3人は北朝鮮で生活していた。 寺越友枝提供

かが「李恩恵」ではないかとも推定されていた（すぐに人違いと判明）。

「五三年は、富山県の海岸でも、四人組が男女を襲った拉致未遂事件が発生しています。失踪前後に国籍不明の不審船が目撃されていた事実や、同時期に韓国の申相玉映画監督夫妻をはじめ、外国でも相次いだ北朝鮮による拉致事件などを考えると、この男女三組が北朝鮮に拉致された可能性は高い」と語るのは、『金正日の拉致指令』の著者で朝日放送報道プロデューサーの石高健次氏である。

富山県で起きた拉致未遂事件とは、二七歳の男子工員と二〇歳の専門学校生が四人組の男に押し倒され、頭から布袋をかぶせられて松林へ運ばれた一件である。幸運にも、通行人の登場で男たちは逃げ去るのだが、現場には外国製の特殊な猿ぐつわや北朝鮮製の縄が残されていた。

アベックの失踪が北朝鮮の仕業とされるのには、別の理由もある。実は、昭和五一年に東京の警備員が石川県の海岸から北朝鮮に連れ去られる事件が発生し、石川県警が被疑者の在日朝鮮人工作員を逮捕。五五年に宮崎県から蒸発した大阪在住のコックについても、韓国で捕まった北朝鮮スパイが拉致の一部始終を自供するなどの〝前科〟があるからだ。

北朝鮮へ拉致された日本人の存在を裏づけるように、金賢姫も「李恩恵先生から『金正日の晩餐会で拉致された日本人夫婦と会った』と聞いた」と語っている。

北朝鮮はなぜ拉致を行ったのか。「連れ去った日本人のパスポートを偽造して替え玉の北朝鮮スパイが実践する対韓国工作であり、もうひとつがスパイ教育係の確保。日本の場合、共犯になる在日朝鮮人が北朝鮮に永住帰国した親族を〝人質〟に取られて、強制的に関与させられているケースが多い」（石高氏）という指摘もあるだけに、問題は深刻だ。

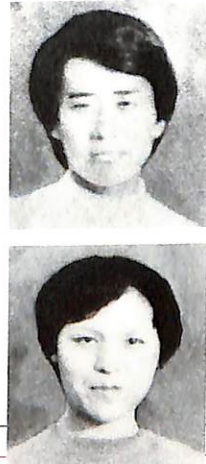
日本には、「韓国の自作自演」と反論し続けている北朝鮮。しかし、失踪事件が多発した昭和五〇年前半は、金日成総書記がベトナムで敗退した米国の影響を韓国からそぐ好機と考えていただけに、すべてを偶然の一致でかたづけるのは不自然だろう。そして平成九年、与党訪朝団は「一般の行方不明者として調査する」との言葉を北朝鮮から引き出した。

こうした中で、平成九年になって注目を集めたのが、昭和五二年に新潟市内で姿を消してから二〇年近くたって北朝鮮の拉致疑惑が判明した横田めぐみさん（当時・一三歳）だ。この一件をスクープした石高氏は、「韓国に亡命した北朝鮮の元工作員の証言によって、成人した彼女が昭和六三年にスパイ養成大学で教官をしていたことが確認されている」と話す。

平成九年一〇月、北朝鮮に三四億円の食糧支援を決めた日本。しかし、拉致被害者一〇人の安否は今も不明で、救出するめどさえまったくついていない。

頻発する日本人拉致疑惑事件 渦中の人たち

横田めぐみさん（当時・一三歳）

昭和五二年一一月一五日、新潟市の市立寄居中学校一年生の横田さんが、バドミントンの部活を終えて帰宅途中に、消息を絶った。その後平成八年、月刊誌「現代コリア」の一〇月号で、石高健次氏が、北朝鮮の元秘密工作員から聞いた話として彼女の拉致事件を紹介。また韓国に亡命した元北朝鮮工作員も、彼女の生存を証言。

市川修一さん 写真上（当時・二三歳）
増元るみ子さん 写真下（当時・二四歳）

昭和五三年八月一二日の夕方、鹿児島市の電電公社（現・NTT）職員、市川さんとOLの増元さんが、吹上町の吹上浜から姿を消した。後に韓国に亡命した北朝鮮の元工作員が、市川さんと北朝鮮で話したことがあると語った。

地村保志さん 写真上（当時・二三歳）
浜本富貴恵さん 写真下（当時・二三歳）

昭和五三年七月七日の夜、二人は福井県小浜市郊外の公園で姿を消した。二人は六月に結納を交わし、この年一一月に挙式の予定で、失踪する理由はまったく見当たらなかった。現地の展望台で、地村さんの軽トラックが発見された。

共同通信社（人物5点とも）

蓮池薫さん 写真上（当時・二〇歳）
奥土祐木子さん 写真下（当時・二二歳）

新潟県柏崎市に帰省中の中央大学生・蓮池さんと美容師の奥土さんが、昭和五三年七月三一日、柏崎市の図書館でデートした後、行方不明に。近年、北朝鮮から韓国への亡命者が、蓮池さんらしい人が北朝鮮にいることを証言した。

朝日新聞社

読売新聞社

10人の日本人失踪者と北朝鮮を結ぶ〝点と線〟
本名・田口八重子、35歳。子ども二人

「李恩恵」は、なぜ拉致されたのか？

◀行方不明になっている市川さんと増元さんの情報を求める警察の立て看板が、鹿児島県の吹上浜に立てられている。

芥川仁

海難事故が拉致事件に一転した？ 北朝鮮での生存が確認された「寺越武志事件」

3人の日本人が突然姿を消したのは、昭和38年5月11日のことだった。この日、石川県羽咋郡志賀町在住の寺越武志（13）と、叔父の寺越昭二（36）、寺越外雄（24）は漁に出たまま行方がわからなくなり、翌朝、無人の漁船が沖合8キロの地点で発見される。舳先に開いていた穴から、衝突事故で海へ投げ出されて死亡したものと思いこんだ親族らは、遺体なしで葬式をすませてしまう。

ところが、事故から24年たった昭和62年1月22日、北朝鮮から一通の手紙が、外雄から姉の栗原豊子に届いた。「北朝鮮で家族を持ち、幸福に暮らしている」――昭二はすでに亡くなっており、外雄と武志は結婚して平壌北方の町に住んでいた。その年の9月3日、武志の母親である寺越友枝が平壌を訪問して親子は24年ぶりの再会をはたすが、北朝鮮へ行った理由を聞く母親に、武志は「眠っていてわからない。気がついたら（北朝鮮の）病院だった」と答えるだけだったという。

母親の帰国運動によって、抹消されていた戸籍を平成9年6月に回復したものの（外雄は平成6年に死亡）、武志は「共和国で生きがいを得た。日本に帰る気持ちはない」と語り続け、今も北朝鮮で暮らしている。

◀平成九年一一月、平壌で、与党訪朝団長の森喜朗から、母親が託した荷物を受け取る寺越武志さん（右）。

共同通信社

「リクルート事件」の"醜悪"構造

藤波官房長官（秘書名義）＝一万二〇〇〇株、高石文部次官＝一万株、真藤NTT会長（秘書名義）＝一万株……

▲昭和63年11月21日、衆議院のリクルート特別委員会で証人喚問されるリクルート社前会長・江副浩正。江副は政界・財界・官界のリーダーたちに大量の未公開株をばらまき、平成元年2月、逮捕された。　共同通信社

政治家、財界人、官僚、学者、マスコミ関係者……、日本の指導的地位にある人々が、リクルート社の"金権"攻勢に汚染されていた。さらにそのいいわけの醜悪さ、往生際の悪さ。「リクルート事件」がさらけ出した彼らの"素顔"に、国民はこの国のリーダーたちへの決定的な不信感を抱いてしまったのである。

テレビ画面で放映されたリクルート社の贈賄工作

「（国会在職二五周年の）お祝いの志として、（中略）お持ちしました」

「なんですかこれ。（中略）裏金から持ってきたわけ？　そういう交際費があるわけ？」

「あくまで記念品でございますので」

「ちょっと確かめんといかん。（一〇〇〇万円の札束五つを確認）（中略）お返しいたします。江副さん知ってるの？　これ。あんたの一存でできるわけないでしょう」

昭和六三年一一月一日、午後六時の日本テレビ系「ニュース・プラス1」は、リクルート社の幹部社員が、政治家に賄賂を贈ろうとしている生々しいシーンを、五分以上にわたって放映した。

五〇〇〇万円を持参したのはリクルートコスモス社長室長の松原弘（四七）。一方は「国会の爆弾男」楢崎弥之助代議士（社民連）。

当時、リクルート社による政財官界向けの金権攻勢の実態が次々に暴露されていた。そうした中、リクルート社による子会社の未公開株譲渡先リストの提出を迫った楢崎議員に対し、国会での質問に手心を加えてもらおうとしたのだ。その一部始終が、全国に流れたのである。

▶川崎駅西口のリクルートビル建設にからんだ川崎市の小松秀熙助役（写真中央）への未公開株譲渡の発覚が、事件の発端だった。　共同通信社

この年の六月一八日、「朝日新聞」朝刊は、川崎市の小松秀熙助役が、リクルート社関連の未公開株三〇〇〇株を譲渡され、一億円余の利益を得たとするスクープを掲載した。「リクルート事件」の発端である。

六月二四日付の「産経新聞」は、森喜朗元文相に未公開株が譲渡、一億円余の売却益と報じた。リクルート事件で最初に名前のあがった政治家だった。その後七月に入って竹下登首相、中曽根康弘前首相、安倍晋太郎自民党幹事長、宮沢喜一蔵相、渡辺美智雄自民党政調会長などへの未公開株譲渡が判明した。河本派をのぞく自民党全派閥の領袖が名をつらねていた。また、自民党のみならず、民社党の塚本三郎委員長をはじめ、社会党、公明党など野党議員の名も見られた。

株譲渡の多くは、本人名義でなく、家族や秘書などの名義が使われていた。そして譲渡発覚後、「秘書が」あるいは「妻が」と見苦しい弁明に終始した。従来の汚職事件と違い、この事件は、与野党をはじめ、財界から官僚まで、「偉い人」がおしなべて甘い汁を吸っていたことを国民に決定的に印象づけた。

産官の癒着構造は現在も続いている

リクルート社は昭和三五年設立、創業者の江副浩正（五二）が一代で築いた一大情報産業グループ。事件当時は「リクルートブック」「就職ジャーナル」などの情報誌を出版し、急成長していた。

その一方、業務に関連した（誇大広告や無認可校の掲載など）トラブルが生じていた。そのため文部省や労働省など監督官庁では、法規制を検討していた。

これに対し同社は接待攻勢を強める一方、店頭公開目前のリクルートコスモス株を、昭和六一年秋に集中的に譲渡したのである。しかもほとんどが購入資金を、リクルートの系列金融会社が融資していた。譲渡価格は三〇〇〇円のケースが多い。したがって、公開後の初値五二七〇円との差額二二七〇円が一株当たりの利益となった。

つまり、譲渡された側は、自分のフトコロをまったく痛めずに「濡れ手に粟」を手にしたのだ。譲渡先は"ニッポン株式会社"の枢要な人物にまんべんなく広がっていた。名前が明らかになったものは、少なくとも四三人にのぼる。リクルート社から具体的な要望があったケースもあれば、たんに「よろしく」というニュアンスのものもあった。

リクルートはなぜ、これだけ広範、無差別に、未公開株をばらまいたのか？

「日本の株式市場は、情報を開示し、広く資金を募るという本来の姿から見れば、きわめていびつにできている。グループ

▲リクルートコスモス社の松原弘社長室長（左）から楢崎議員への贈賄を申し込むビデオ画面を伝えた、11月2日付「朝日新聞」。

相互や有力企業同士の株式の持ち合い、議論が皆無で時間の短かさを競い合う株主総会などは、その所産です。この談合体質の企業社会に、リクルートが新規参入し、認知されるために無理を重ねたのだろう。実は同じことを、旧来の勢力はよりスマートに、ばれない形でやっていた。新興勢力だけに、広範に、しかも無差別に金や未公開株をばらまいた点にこの事件の特異性がある」

と評論家の室伏哲郎氏は言う。

リクルート社会長・江副浩正は平成元年二月に逮捕されるが、一方、未公開株の譲渡を受けた人の数は、いまだに特定されていない。そして、起訴されたのは贈賄側と収賄側を合わせて、たった一二人にすぎなかった。まさに「大山鳴動して……」だったのである。贈賄側からは江副（一審係争中）らが起訴され、一方、収賄側で立件されたものは、公務員（あるいはNTTなどそれに準ずるもの）で、かつ特定の職務権限を持ち、それを行使（あるいは不行使）したものに限られた。

したがって派閥領袖は不問とされ、収賄側は、藤波孝生元官房長官（秘書名義で一万二〇〇〇株譲渡。一審無罪、二審有罪＝懲役三年執行猶予四年、追徴金四二七〇万円。上告中）、加藤孝元労働事務次官（三〇〇〇株譲渡。懲役二年執行猶予三年、追徴金六八一万円。確定）、高石邦男前文部事務次官（一万株譲渡。二審判決、懲役二年六月執行猶予四年、追徴金二二七〇万円。上告中）、真藤恒・前NTT（日本電信電話会社）会長（秘書名義で一万株譲渡。懲役二年執行猶予三年、追徴金二二七〇万円。確定）ら五人が訴追されたにとどまったのである。なお、追徴金は、裁判所によって賄賂と確定された金額である。

霞ケ関の高級官僚の腐敗は、すでにこの時点で根ざしていた。そして産官の癒着構造の打破が叫ばれたものの、そのための有効な手が打たれないで、その後も温存されたままだったことが、現在の底知れぬ〝金融〟汚職、タカリの続出につながっているのである。

◀秘書名義で1万株を受け取っていた前NTT会長・真藤恒も、訴追された。 朝日新聞社

▲元官房長官・藤波孝生。1万2000株（秘書名義）。

共同通信社（人物四点とも）

▲公明党・池田克也。5000株（秘書名義）受諾。

▲労働省元事務次官・加藤孝。3000株受諾。

▲文部省前事務次官・高石邦男。1万株を受諾。

女たちの肖像

またまたミリオンセラー〝永遠の青春仕掛人〟松任谷由実のメッセージ

稲葉真弓

「私はプチブル」「四畳半フォークは大嫌い」「いつも自分のことを天才なんだと思い続けてやってきた」――これらはいずれも、お洒落でスノッブな音楽を作ることで知られるユーミンこと松任谷由実（三四）の語録である。

売り上げが伸び悩む音楽界の中で、彼女のアルバムは昭和五八年「ボイジャー」以後、どれもミリオンセラー。五九年発売の「NO SIDE」、六〇年「DA・DI・DA」、六一年「アラーム・ア・ラ・モード」もベストテン入り。六三年のこの年も、前年暮れ発売の「ダイアモンドダスト が消えぬまに」がたちまちヒットチャートに乗り、七七万枚の大ヒットとなった。

彼女を支持したのはOLや女子大生たちだった。生活感を排除したリッチな日常や、深夜のハイウェイなどを背景にした恋愛模様が、若い女性たちの心をつかんだのである。ユーミンの曲を分析すると、〝女の子〟と〝青春〟という言葉がキーワードとして浮かび上がる。キラキラ輝いている季節、何かが起こるかもしれないスリリングな時期、前向きに幸福を求めようというメッセージと、最先端のテクノロジーを駆使して作られたサウンドが心地よい相乗効果をもたらし、クリスマスにはユーミンの曲を一緒に聞き、おめあての女の子をその気にさせるというスタイルがモードにもなった。

彼女は昭和二九年、東京・八王子の老舗呉服店の四人兄姉の次女として生まれ、何不自由ないお嬢様として青春をすごした。高校はミッション系の立教女学院。作曲を始めたのは中学の頃で、高校時代は六本木のディスコなどを遊び場にして感性を磨きつつ、お茶の水美術学校で絵の勉強もしていた。多摩美術大学に入学した一八歳の時、旧姓の荒井由実の名前でシングル「返事はいらない」を発表。昭和五〇年には、「あの日にかえりたい」が大ヒット。ニュー・ミュージックの女王＝荒井由実が誕生した。

私生活では、ファースト・アルバム作りが縁でミュージシャンの松任谷正隆と昭和五一年に結婚。以後の活動は、年一度のアルバム発表、全国ツアーと目をみはるものがあるが、特筆すべきは「日本一華麗なコンサート」と言われる舞台だろう。本物の象が登場したり、たいまつや噴水がふんだんに使われ、ほとんどスペクタクル・サーカス。四四歳になった今も〝永遠の青春仕掛人〟は全国ツアー、夏のリゾートコンサートの準備にと、パワー全開中である。

雲母社提供

▲パワフルなステージ風景。

勝者・敗者

育てた世界チャンプ六人！トレーナー「エディさん」がプロ魂を発揮した〝最終戦〟

阿部珠樹

「エディさん」

誰もがそう呼んだ。エディ・タウンゼントは、いくつになっても〝一介〟のトレーナーだった。自分のジムはおろか、専属のジムさえ持たず、素質のある若者のいるジムなら気軽に出かけていって指導した。腕は筋金入りだった。昭和四二年、藤猛を世界J・ウェルター級チャンピオンに育てたのを皮切りに、王座から陥落していた海老原博幸を再び王座に押し上げ、柴田国明、ガッツ石松、友利正と、手がけた選手を次々に世界チャンピオンに仕立てた。最後に育てたのが井岡弘樹（一九）である。

この年一月三一日は、その井岡の初防衛戦の日だった。エディは会場に入った。担架に載せられて。肺癌が進行し、とても病院を抜け出せる状態ではなかった。しかし、最後の弟子の大一番のためと、周囲の反対を押し切り、会場に乗りこんできたのだ。だが、会場には着いたものの、すぐに昏睡状態になり、病院に逆戻りしなければならなかった。

動揺をはね返し、井岡はよく戦った。エディに教わったとおり、左のリードパンチを徹底して繰り出し、手数で圧倒し、最終ラウンド、TKOで挑戦者を葬った。判定では圧倒的に有利だったので、KOは不必要だったが、井岡にすれば、エディを励ます意味でも、何としてもKOで勝利したかったに違いない。

試合が決着すると、セレモニーもそこそこに、井岡はエディのいる病院に向かった。病床でKO勝ちを報告する。師は弟子の報告にかすかにうなずいたように見えた。日付けが変わった二月一日、エディ・タウンゼントはそのまま帰らぬ人になった。七三歳だった。

米国人の父と日本人の母との間に生まれ、ハワイでボクシングを学んだエディは、戦後、プロのトレーナーとなり昭和三七年に来日。死ぬまでに六人の世界チャンピオンを育てた。〝ボクシングの職人〟の魂は、最後の夜までリングとともにあった。

▶一月二〇日、井岡（右）の初防衛戦の公開スパーリングの日、愛弟子を励ます「エディさん」。大阪市西成区のグリーンツダジムで。

共同通信社

ニュース・ファイル 1988

フォト＋日録で再現する366日

千代の富士が圧倒的な強さで双葉山の記録を追い、東京ドーム、瀬戸大橋と巨大プロジェクトの完成が相次いだ。一方、リクルート疑惑は、元首相らを巻きこんで政・官・財界を揺るがした。そして九月一九日、天皇が大量の吐血・下血。一転、日本は静かな緊張に包まれた。

◀**昭和天皇容態急変（9月19日）** 8月から断続的に続いた発熱のため、前日は相撲観戦を中止。この日午後10時近くに、大量に吐血・下血があり、緊急輸血が行われた。写真は、急報を伝える東京・渋谷駅前の電光掲示板。

毎日新聞社

1月

共同通信社

◀**早大ラグビー、16年ぶり日本一（1月15日）** 東京・国立競技場で行われた、学生・社会人による日本選手権で東芝府中に22対16。これで学生は8勝17敗。翌年以降両者の実力差が急激に大きくなり、平成10年、選手権方式が変更された。

▼**原子力船「むつ」さびしい回航（1月27日）** 青森県むつ市大湊港から新母港、同市関根浜港に移動。昭和57年の放射能もれ事故後に大湊港に戻ってきた時と違って、静かな入港だった。平成9年、海洋地球研究船「みらい」として再出発。

共同通信社

▲**東亜ＹＳ-11機、米子空港で離陸に失敗（1月10日）** 滑走路をオーバーランして前方の中海に突っこんだが、同空港を共用している航空自衛隊隊員らが出動、乗員乗客52人のうち3人が軽傷を負っただけで、全員救助された。

読売新聞社

◀**木簡から長屋王の邸宅跡確認（1月12日）** 奈良国立文化財研究所が発表。平城宮跡近くの二十数棟の建物跡を、神亀6年（729）に藤原氏により自殺に追いこまれた「悲劇の宰相」の邸宅と断定した。写真は、出土した木簡（左）とそのスケッチ。「長屋王に米一石を送った」などとある。

朝日新聞社

読売新聞社

▶**第一相銀にダンプで嫌がらせ（1月8日）** 東京・神田の本店に突っこみ、玄関に砕石をばらまいた。運転者は右翼団体員。「地上げ屋・最上恒産に不正融資する同行への抗議」と供述した。

共同通信社

◀**東京・六本木のディスコで巨大照明具落下（1月5日）** 前年5月に開店の超人気店「トゥーリア」の売りものだったが、長径約5メートル、重さ1、6トンもあり、3人が死亡、14人が重軽傷を負った。

昭和63年1月

1（金）●東京の地下鉄一九一全駅で終日禁煙を実施。●養子を実子にできる「特別養子制度」始まる。●三笠宮家の次男・宜仁親王が桂宮家を創立。
2（土）●歌手・近藤真彦の母の遺骨が盗難と判明。
3（日）●原発に不安が八五％に急増と総理府世論調査。
4（月）●ソ連、ソウル五輪をボイコットしないと表明（12日、北朝鮮は不参加表明）。
5（火）●東京・六本木のディスコで照明落下。三人死亡。
6（水）●東京消防庁、最新式小型消防ロボットを試演。
7（木）●広島大、衣笠祥雄を特別講師に招請と決定。
8（金）●天皇、講書始を欠席（12日、歌会始を欠席）。
9（土）●ベータ方式ビデオを製造・販売してきたソニー、VHS方式のビデオを採用と発表。
10（日）●米子空港でYS・11が離陸失敗、中海に突入。
11（月）●秋田地検、大潟村闇米事件で農民を不起訴。●大塚製薬、繊維飲料「ファイブミニ」発売。
12（火）●日本医師会生命倫理懇談会、脳死を個体死と認め臓器移植推進をはかる答申。
13（水）●台湾の蔣経国総統、死去（後任に李登輝）。
14（木）●福島医大がエイズ死患者の解剖拒否と判明。●国際超伝導産業技術センター、設立。
15（金）●韓国、前年の大韓機爆破事件は北朝鮮のテロと断定。金賢姫が記者会見し爆破認める。
16（土）●竹下首相に短銃送った高松市の右翼二人逮捕。
17（日）●大月市長・矢板市長、収賄容疑で逮捕。
18（月）●公明党の田代富士男参院議員の受託収賄発覚。
19（火）●文部省、海外への修学旅行を公式に認知。
20（水）●タイの世論調査で、「日本の経済援助は日本自身の利益のため」が六八％と判明。
21（木）●最高路線価発表。東京二三区は七七％の暴騰。
22（金）●閣議、地方移転候補一七省庁三一機関を決定。
23（土）●ジョン・ローン主演「ラスト・エンペラー」封切（15日、日本版で南京虐殺シーン削除と判明）。
24（日）●相撲協会の春日野理事長、土俵上で退任表明。
25（月）●前年の四輪車生産は二年連続マイナスの一二五五万台、国内需要は過去最高と自工会。
26（火）●政府、大韓機事件で四項目の北朝鮮制裁措置。
27（水）●竹中工務店と新日鉄、五〇階建て高層鉄骨住宅の新建築工法「T・50」を発表。
28（木）●大丸・東京店にドリンク剤専門バーが開店。
29（金）●宇野外相、アイヌ民族を日本の少数民族として国連に報告と発表。
30（土）●酒を飲む女性は四三％と総理府世論調査。
31（日）●初の「日本語教育能力検定試験」実施。

共同通信社

▼新宿の駐車場でバスが次々炎上(2月29日)燃えたのは都心と成田空港を結ぶリムジン4台。時限式発火装置が見つかり、翌日、過激派の中核派が犯行声明を出した。

▲カルガリー冬季五輪で、黒岩彰が雪辱の銅(2月14日)スピードスケート500メートルで36秒77を出し、4年前10位の汚名をそそいだ。右は1位になった東独のメイ。

朝日新聞社

▲栃から若へ(2月1日)日本相撲協会が役員を改選、春日野理事長(元横綱栃錦、左)の後任に二子山(元横綱若乃花)が選ばれた。二子山は59歳。二人はかつて「栃若時代」を築いた両雄だった。

共同通信社

共同通信社

▲「ドラクエ」に殺到(2月10日)ゲームソフト「ドラゴンクエストⅢ」の発売で徹夜組まで出る騒ぎ。「自分が主役になれ、頭を使うのが魅力」と高校生。写真は東京・池袋の「ビックカメラ」前の行列。

▶盧泰愚韓国大統領が就任(2月25日)前年12月に16年ぶりに行われた選挙で、野党の金泳三、金大中をおさえて当選。退任後の1995年、政治資産隠匿を暴露され、韓国政治史上に汚名を残した。

共同通信社

▶校庭に謎の「9」(2月21日)未明、東京・世田谷の中学校に覆面姿の男たちが侵入、宿直員をトイレに監禁し、447個の机で「9」、9脚の椅子で「.」を構成。同校卒業生ら9人による、いたずらだった。

共同通信社

昭和63年2月

1(月)●米軍厚木基地の夜間発着訓練に悩む大和市の住民、三宅島を訪問し訓練場受け入れを陳情。
●日本移動通信など二社に自動車電話認可。
2(火)●ガット、日本の農産物輸入制限を違反と裁定。
3(水)●札幌市の観光会社、オーストラリアで最古のコアラ保護区を二〇億円で買収と発表。
4(木)●米、パナマの最高実力者・ノリエガ将軍を麻薬取引で起訴。
5(金)●国連アパルトヘイト特別委員長、対南ア貿易世界一の日本に遺憾声明。
●JR貨物、低温コンテナを開発し試験輸送。
6(土)●浜田幸一衆院予算委員長、宮本共産党議長を「殺人者」と発言(12日辞任)。
7(日)●韓国、金賢姫の教育係「李恩恵」の似顔絵公表。
8(月)●東京で電話の市内局番の四ケタ移行開始。
9(火)●富山地裁、連続誘拐殺人の宮崎知子に死刑、共犯とされた男性に無罪判決。
10(水)●ゲームソフト、「ドラゴンクエストⅢ」発売。
●東京都三宅村村議選で、米軍機夜間発着訓練場反対派が定数一四中一一議席を獲得。
11(木)●プリペイドカード、清涼飲料水を先駆けに四月から本格化、と新聞に。
12(金)●四国電力、伊方原発の出力調整試験を強行。
13(土)●カルガリー冬季五輪開幕(～28日)。
14(日)●五輪スピードスケート五〇〇㍍で黒岩彰三位。
15(月)●国際捕鯨委、日本の調査捕鯨中止勧告を決定。
16(火)●韓国人名の日本語読みは人格権侵害と最高裁。
●七五％の学校で先割れスプーン使用と文部省。
17(水)●北海道・九州中心に二三五市で人口減と判明。
18(木)●日本タウン誌協会、設立。ネットワーク作りへ。
19(金)●浜松市住民の暴力団追放運動、一力一家の組事務所撤収で和解。
20(土)●産婦人科学会、凍結受精卵の子宮移植を承認。
21(日)●葬儀費用は都市部で平均五三万円、一万円ですむ自治体サービスも、と新聞に。
22(月)●住都公団、箕面市で九九八八万円の住宅分譲。
23(火)●法相、成田空港における「ALIENS」表示を「FOREIGN PASSPORTS」に変更と表明。
24(水)●広島原爆資料館、入館者三〇〇〇万人を突破。
25(木)●韓国で盧泰愚大統領の就任式。
26(金)●喫煙者を乗車拒否できる「禁煙タクシー」認可。
27(土)●出水市で「アジア・ツル・シンポジウム」開催。
28(日)●参院大阪補選で共産党候補が自社両候補破る。
29(月)●兵庫県、鐘淵化学にPCB焼却処理を許可。

共同通信社

▲修学旅行暗転、上海で列車事故(3月24日)列車同士が正面衝突。高知市の高校生・教諭ら28人が死亡、45人が重軽傷。犠牲者の補償金額は、一人約450万円にすぎなかった。

▲ミック・ジャガー、日本公演(3月15日)ビートルズと人気を二分したロックグループ、ローリング・ストーンズのリーダーがついに来日。東京などで、44歳とは思えないワイルドな歌声とアクションを見せた。写真は初日、大阪城ホールで。

読売新聞社

▼クロロキン薬害、国の責任否定(3月11日)東京高裁が、製薬会社の過失を認める判決。原告団は国を上訴、平成7年、最高裁は厚生省の権限を認めながらも、責任は問わなかった。

共同通信社

◀マル優廃止へ(3月31日)翌月1日から、65歳以上の高齢者、身障者手帳所持者らをのぞき少額貯蓄非課税制度(マル優)が廃止。預金利子に一律20パーセントの分離課税適用となり、銀行の「相談窓口」がにぎわった。

共同通信社

共同通信社

読売新聞社

◀野球を味わうレストラン(3月6日)神戸市に完成した「グリーンスタジアム神戸」に、球場では初の常設店が開店。客席数173。内野席最上段にあり、ステーキを食べながらゲームを楽しむことができる。

▲東京ドーム完成(3月17日)東京・後楽園に日本初の屋根つき球場、全天候型多目的スタジアムが誕生した。写真は完工式の様子。当日は雨天で、さっそくドームの威力が発揮された。

昭和63年3月

1(火)●最高裁、水俣病刑事訴訟で元チッソ社長・工場長の上告棄却。一二年ぶりに決着。
2(水)●原産会議、日本は世界四位の原発国と発表。
3(木)●ワシントンの地下鉄工事で、日本企業を公共事業から排除する法律が初めて適用される。
4(金)●ソ連、サケ・マスの沖取り全面禁止を提案。
5(土)●ロックグループ「BOφWY」解散コンサートの入場券予約電話殺到し都内全域で電話規制。
6(日)●大深度地下鉄建設で地権制限の方針と運輸省。
7(月)●本からの複写は年三五〇億円相当と出版団体。
8(火)●厚生省は寝たきり老人への歯科医往診を試験的に開始する、と新聞に。
9(水)●神奈川県警、輸血拒否で子が死亡したエホバの証人の両親に刑事責任を問わないと決定。
10(木)●地震予知に人工衛星での地殻変動観測網設置。
11(金)●豪、港区の大使館敷地の一部を売却と発表。
12(土)●昭和女子大がクレジットカード兼用の学生証を発行、と新聞に。
13(日)●世界最長の青函トンネル含む津軽海峡線開業。
14(月)●コカコーラ社の日本での収入が米抜くと判明。
15(火)●NASA観測で日本上空もオゾン層破壊深刻。
●最高裁、カラオケにも著作権と判決。
16(水)●日米伊四社とソ連、カスピ海の油田での世界最大の石油化学プラント建設計画調印。
17(木)●日本初の屋根つき球場、「東京ドーム」落成。
●大正九年創刊の「婦人倶楽部」、休刊。
18(金)●霊感商法の背後に統一協会、と日弁連意見書。
19(土)●厚生省、エイズ治療費を国費負担と決定。
20(日)●日赤が都内三五万人分の献血を廃棄と判明。
21(月)●東京ドームで世界ヘビー級戦。タイソン防衛。
22(火)●勤労者世帯の平均貯蓄額は八一九万円、六九％が平均以下、と総務庁。
23(水)●総評、水曜日をノー残業デーとする運動開始。
24(木)●上海近郊で列車同士が正面衝突。修学旅行中の高知学芸高校生ら二八人死亡。
25(金)●学生証を偽造し無学籍の学生を「入学」させた専修大教授、逮捕。
26(土)●「原爆の火」、国連軍縮特別総会に向け広島発。
27(日)●二十代男性の六四％が警察に悪印象と総理府。
28(月)●政府、関西文化学術研究都市の建設計画承認。
29(火)●日本の建設市場開放に関する日米協議が妥結。
30(水)●スポーツの振興に関する懇談会、五輪メダリストへの功労金支給などを竹下首相に答申。
31(木)●セマウル疑惑で全斗煥韓国前大統領の弟逮捕。

◀屋根なし旅客機、奇跡の生還(4月28日)ハワイ上空を飛行中の、アロハ航空ボーイング737型ジェット機の機体前部外壁が突然吹き飛んだが、なんとか20分後、マウイ島のカフルイ飛行場に着陸。スチュワーデス一人が行方不明、60人が負傷した。写真は、乗組員の誘導で飛行機から脱出する乗客たち。

ロバート・ニコルス／Black Star／PPS

本田技研工業提供

▶米ホンダ車、逆上陸(4月8日)本田技研工業が米オハイオ工場で生産した乗用車アコード・クーペで、左ハンドル、260万円。円高と消費者の嗜好の多様化に、期待をかけた。

▼コウノトリ、人工繁殖成功(4月5日)東京都立多摩動物公園で、中国産のつがいが産んだ卵がかえった。6日にも別の卵が孵化。滅びゆく特別天然記念物に、明るい灯がともった。

共同通信社

▶坂本龍一、アカデミー賞作曲賞受賞(4月11日)日本人では初めて。ベルトルッチ監督「ラストエンペラー」での、西洋と中国、近代と現代を混在させた音楽が評価された。36歳。YMO時代の「テクノ・ポップ」で知られる。

読売新聞社

▶美空ひばり復活(4月11日)東京・水道橋の東京ドームで、約5万人のファンを前に40曲を熱唱。前年4月来、左右大腿骨骨頭壊死と慢性肝炎で入院、再起不能説も流れていた。

▼ピンクチラシ印刷に売春ほう助罪(4月18日)東京地裁は、内容を認識したうえで注文を受けたとして、業者に懲役3月、執行猶予2年の判決。被告側が主張する「出版の自由」を退けた。

共同通信社

日刊スポーツ

昭和63年4月

1(金)●東亜国内航空、日本エアシステムに改称。●高齢者などをのぞき、マル優廃止。

2(土)●東京・西新宿で新都庁庁舎の起工式挙行。

3(日)●円高を背景に不動産を大量に買い求める日本人の活動がハワイで問題化、とホノルル発。

4(月)●大蔵省、最上恒産不正融資の第一相銀を検査。

5(火)●多摩動物公園、コウノトリの人工繁殖に成功。

6(水)●焼津市の中学校が校則違反の女生徒を九ヵ月間出席停止にしていたことが判明し問題化。

7(木)●千代田区の昼間人口が一〇〇万人突破と判明。●第一回世界禁煙デー。

8(金)●本田技研工業、米国ホンダ車を初めて逆輸入。

9(土)●ニューヨークで海外初の駅伝大会開催。

10(日)●瀬戸大橋の児島—坂出ルートが開通。

11(月)●坂本龍一、映画「ラストエンペラー」で米アカデミー賞オリジナル作曲賞を受賞。

12(火)●米でパイプ爆弾所持の日本人逮捕(22日起訴)。

13(水)●河合塾、NTTの協力で通信衛星を利用した全国同時中継の「サテライト授業」開始。

14(木)●日活、「ロマンポルノ」終結宣言。

15(金)●国際商取引禁止の熊の胆嚢がインドから七年間に四八〇〇頭分も不正輸入と判明。

16(土)●宮崎駿監督「となりのトトロ」封切。

17(日)●ロッテルダム・マラソンでエチオピアのデンシモが二時間六分五〇秒の世界最高を記録。

18(月)●金剛峯寺で火災。地蔵院と遍照光院が焼失。

19(火)●大阪高裁、学生証で身分確認可能と、外国人登録証不携帯の元大学生に逆転無罪。

20(水)●電事連、原発の安全性と必要性を宣伝する原子力PA企画本部を設置と発表。

21(木)●文化庁、黒字削減策で購入の海外美術品発表。

22(金)●水没寸前の沖ノ鳥島の護岸工事船が横浜出港。

23(土)●自民党の森喜朗、「大阪は痰壺、公共心のない汚い町」と発言、問題化。

24(日)●「なら・シルクロード博覧会」開幕。

25(月)●岡山県・人形峠で動燃のウラン濃縮工場が操業を開始。

26(火)●荒川区の隅田川で三十数年ぶりに鮎がとれる。

27(水)●東京第一検察審査会、共産党幹部宅盗聴事件の三警官不起訴は不当と議決。

28(木)●前年の建設受注額は一五兆円で過去最高。工場・研究所の建設ラッシュが要因と業界発表。

29(金)●自治体の女性議員は一四四七人と自治省発表。

30(土)●柔道界内紛終結。全柔連と学柔連が調停受諾。

証言・あの日この日

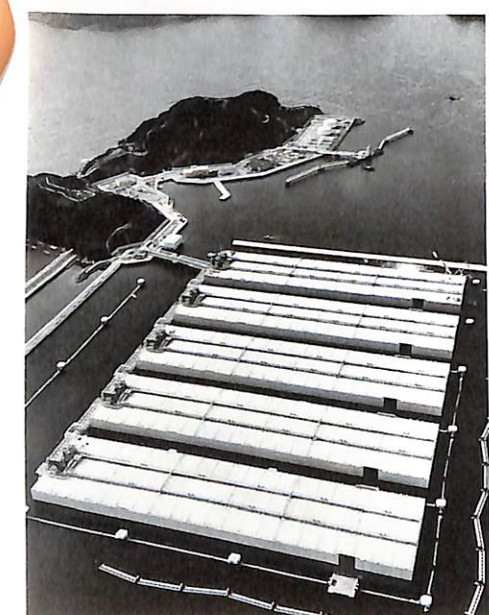
田中康夫(31)

1月5日(火)〈一月五日夜、死亡者三名、負傷者一四名の事故が起きたディスコ、トゥーリアの土地には、元々寺と墓がありました。／事故の第一報を聞いた瞬間／「地上げ屋、空間プロデューサーといった実体のないまやかしものたちの終焉」ということが僕の頭の中を過りました〉(田中康夫『ファディッシュ考現学'88』)

この頃、深夜営業のコンビニやレストランが普及し、ディスコは夜明けまで若者たちであふれていた。しかし、この日深夜、六本木のディスコ・トゥーリアで、売りものの1.6トンの照明器具が落下。客3人が死亡した。作家・田中康夫は、それが〈まやかしものたちの終焉〉を、つまりバブルの終焉を意味していることを知っていた。というのも「地上げ」途中の遊休地に建てられたトゥーリアこそ、バブルの象徴だったからだ。(山崎行太郎)

朝日新聞社

▲若花田、優勝デビュー(5月20日)大相撲夏場所の序ノ口で、7戦全勝。父の藤島親方(元大関貴ノ花)ばりの二枚腰に、ファンの熱い期待が寄せられた。写真は喜びの父(左)と。若花田(現・若乃花)は17歳だった。

▶美智子妃の母・正田富美子さん死去(5月28日)前年夏以来、入退院を繰り返していたが、腎不全のため、東京都中央区の聖路加国際病院で亡くなった。78歳。夫は日清製粉名誉会長・正田英三郎氏。写真は29日、東京・五反田の正田邸を弔問された皇太子ご一家。

共同通信社

◀世界初の洋上石油備蓄基地(5月)長崎県上五島町の青方湾に、昭和59年着工。この月中旬、最後の貯蔵船が引着し、係留すみの4隻と連結した。10月から440万キロリットル、国内消費量の8日分の石油備蓄が開始された。

読売新聞社

▼「職業は革命家です」(5月23日)偽名で帰国・潜伏し6日に逮捕された、昭和45年の「よど号」ハイジャック事件の犯人の一人・柴田泰弘が、法廷で初めて本人であることを認めた。

読売新聞社

共同通信社

▲中海・宍道湖淡水化事業凍結(5月31日)島根・鳥取両県知事が、延期で合意。しじみ組合などの「汽水を守れ」の声が通った。これで、昭和38年に農水省が始めた事業は大幅見直し。写真奥が、塩水をストップできる中浦水門。

昭和63年5月

1(日)●東陶機器、女性トイレで用便時に音を消し節水する擬音装置「音姫」を発売。●NTT、音声配達する「ボイス電報」開始。

2(月)●江戸川区内に六価クロム汚染土山積みと判明。

3(火)●企業の八割が中途採用推進と人事行政研調査。

4(水)●一五歳未満人口が初めて二割切ると総務庁。

5(木)●新潟市の信楽園病院、脳死認めた医師会見解により初の脳死腎移植手術を行う。

6(金)●「よど号」ハイジャック事件の柴田泰弘、逮捕。

7(土)●川や湖に外来魚が急増、日本産減少と環境庁。

8(日)●水戸泉—霧島戦で史上初めて三回の物言い。

9(月)●奈良県斑鳩町の藤ノ木古墳で調査再開、ファイバースコープで石棺内部をさぐる。

10(火)●公明党衆院議員・大橋敏雄、創価学会を私物化と池田大作を批判(6月6日除名)。

11(水)●大阪の男性エイズ患者が男女一五〇人と性的接触と判明。

12(木)●新潟県中条町に南イリノイ大新潟校が開校。

13(金)●竹下首相、日本の中国侵略を否定する発言を繰り返した奥野誠亮国土庁長官を更迭。

14(土)●神戸市の一和会会長宅前でパトカーに銃乱射。

15(日)●ソ連、アフガニスタンからの撤退を開始。

16(月)●福井県自然保護課、建設省に九頭竜川中州の樹木伐採中止要請。鷺の巣五〇〇個が全滅。

17(火)●東京都青ケ島村、幹部職員を全国に一般公募。

18(水)●大阪港に停泊のソ連客船で火災。四六人死傷。

19(木)●「無添加」食品の半数がニセ物と、都消費者センター。

20(金)●フロン規制法公布施行。

21(土)●アジア卓球選手権で来日の北朝鮮選手団、日本政府の行動制限に大会ボイコットし帰国。

22(日)●皇太子、天皇代行で初めて全国植樹祭に出席。

23(月)●核戦争後には最高四〇億人が餓死と国連報告。

24(火)●対外純資産が初めて一兆ドル突破と大蔵省。

25(水)●NTT、経常利益で野村証券を抜き日本一に。

26(木)●首都圏限定の生活情報誌「Hanako」創刊。●岩手県沢内村、全国初のコンピュータによる全住民対象の健康管理システムを運用開始。

27(金)●東京地裁、不倫を理由とする解雇は解雇権の乱用で不当との訴えを却下。

28(土)●個人情報保護条例制定が五年で三倍と自治省。

29(日)●首都高値上げ反対の三〇人が料金所集団突破。

30(月)●JR七社が初の決算。経常利益は計画の四倍。

31(火)●証取法改正公布。インサイダー取引を規制。

▶石垣島で空港建設反対デモ(6月13日)候補地・白保の埋め立て計画を進める沖縄県の動きに抗議。世界有数のアオサンゴの群生地を守れと、国際的な反対運動も起きていた。

小橋川共男

◀「片腕のエース」ジム・アボット登板(6月29日)仙台で行われた日米大学野球第3戦で、猛打の日本軍を5回完封。ジムは、右手首から先がなかった。

朝日新聞社

▶橋本聖子(23)夏季五輪にも(6月12日)自転車の、ソウル五輪代表選考会スプリントで優勝(右側)。カルガリー冬季五輪に続き、日本初の冬夏連続代表に。

共同通信社

▶名鉄長良線廃止(6月1日)明治44年開業、岐阜市内の徹明町—長良北町間3.9キロを走り「赤いチンチン電車」と親しまれていた。写真は、前日の最終電車。

中日新聞社

▼田部井淳子(48)五大陸最高峰征服(6月14日)エベレスト、モンブラン、キリマンジャロ、アコンカグアに続き北米のマッキンリーに登頂、日本女性初の偉業達成となった。

共同通信社

▼明電工事件で中瀬古功元相談役ら逮捕(6月27日)株の売買で得た利益を隠し、3年間で20億円余も脱税。国会議員や官僚らへの、不明朗な献金も明るみに出た。

読売新聞社

昭和63年6月

1(水)●最高裁、自衛官合祀拒否訴訟で一・二審の違憲判決をくつがえし、合祀は合憲と判決。
2(木)●スパイクタイヤ製造を六五年度末までに中止。
3(金)●次期支援戦闘機の日米共同開発比率合意。
4(土)●札幌で世界選抜スカイダイビング大会開催。
5(日)●NHK杯体操選手権で高校生の西川大輔と池谷幸雄が一・二位。高校生初の五輪代表に。
6(月)●クロロキン訴訟で製薬六社が責任を認め和解。
7(火)●スウェーデンで二〇一〇年原発全廃の法成立。
8(水)●国民の四人に一人が歯槽膿漏と厚生省調査。
9(木)●フリーダイヤルの利用、一年で三倍と新聞に。
10(金)●富士川河口で一八五四年に沈没したロシア軍艦「ディアナ号」の探査作業開始。
11(土)●ニューヨークで二〇万人が反核デモ。
12(日)●製薬一〇社が痴呆治療薬を臨床試験と新聞に。
13(月)●マレーシア紙、フジテレビがサバ州住民を首狩り族扱いで取材と報道。
14(火)●田部井淳子、北米マッキンリー登頂に成功。日本の女性で初めて五大陸最高峰を踏破。
15(水)●桜島噴火。鹿児島市で観測史上最多の降灰。
16(木)●シャープ、一四型液晶テレビを開発と発表。
●ソ連のピアニスト、ブーニン、西独で亡命。
17(金)●肥満嫌われ企業内フィットネス隆盛と新聞に。
18(土)●「朝日新聞」の報道でリクルート疑惑発覚。
●ブームの中国製育毛剤「101」によるかぶれが続発、医師は乱用を警告、と新聞に。
19(日)●行革で収入役を廃止する町村が急増と新聞に。
20(月)●日米牛肉・オレンジ自由化交渉、妥結。
●米誌の世界銀行番付で邦銀が五位まで独占。
21(火)●ビルマで独裁に反対する大規模デモ(暴動化し、7月、ネ・ウィン議長辞任)。
22(水)●ミドリ十字の血液製剤で産婦が肝炎と判明。
23(木)●東芝EMIが、RCサクセションの反原発レコードを理由示さず発売中止、と新聞に。
24(金)●福岡地検、苅田町前町長で衆院議員の尾形智矩の税金不正操作疑惑に不起訴処分。
25(土)●愛媛県の伊方原発近くに米軍大型ヘリ墜落。
26(日)●米民間機関が女性解放度比較。日本は三四位。
27(月)●阪神タイガース、長男看護のため帰国したバースを、「復帰は困難」と判断し解雇。
28(火)●大阪の男性がフィリピンで囚人の腎臓を譲り受け移植手術を受けていたと判明。
29(水)●瓦防衛庁長官、現職で初めて東南アジア訪問。
30(木)●六二年度税収は前年度比一二%増と大蔵省。

「現場」を歩く 中土佐町

「ふるさと創生」資金で作られた純金カツオ盗難事件の顚末

山本徹美

昭和六三年一二月二〇日、竹下登首相はかねてから政策大綱にあげていた「ふるさと創生」の具体策として、全国約三三〇〇の区市町村に一律、一億円の地方交付税を配分すると発表した。この案は翌平成元年三月七日、閣議決定。富裕で地方交付税を受けていない不交付団体をのぞき、どの自治体にも合算すれば一億円にも達する交付税の上積みが、まさにバラまかれたのである。

▲高知県中土佐町の視聴覚室に飾られている、純金カツオのレプリカ。 但馬一憲

一億円をどのように〝有効〟活用するか、各自治体は知恵をしぼることになる。

高知県高岡郡中土佐町では「純金カツオ」を製作、話題を呼んだ。同町を舞台にしたマンガ「土佐の一本釣り」の作者・青柳裕介氏にデザインを依頼、三菱金属直島精錬所で鋳造。純度九九・九九パーセントの金カツオは全長約五八センチ、総重量五二一・六二八キロ。平成二年四月五日から、同町立文化会館でこの純金カツオが展示され、合わせて「中土佐町かつお祭り」などのイベントを開催。これが、意外や大盛況で、人口約八五〇〇人(当時)の漁村が一万人を超える人出でごった返す日も。

純金カツオの公開期間は当初から一年間と決めてあり、同三年四月一日で終了。期間中、延べ三万三一二一人が見学、なかなかの人気だった。

そこに目をつけた県が、「カツオは高知のシンボル」と、同年一一月に中土佐町から約七〇〇〇万円で購入、同時期開館した県立坂本龍馬記念館に展示した。ところが、それを盗まれてしまう。

純金カツオで儲けた人

中土佐町へ行ってみる。同町役場地域振興課員に、純金カツオの顚末を訊いた。

「中土佐と言えば鰹、と印象づけるには絶好でした。今も『かつお祭り』は継続しており、毎年、一万人以上が参加し、観光の目玉にしています。純金カツオの譲渡金は商工、漁業、農業の各分野で分割、基金として使っています」

純金カツオが盗まれたのは、平成五年五月二七日午後八時五〇分頃。県は購入金と同額の保険をかけており、それで損失補塡。その保険会社は警備の不備を主張し、警備会社を訴えていたが、平成六年七月末、犯人二人が逮捕されて後、一〇〇〇万円で示談に。犯人たちは純金カツオを溶かし、神戸市の貿易商を通じて八〇〇〇万円で売却していたと判明した。

本物は消滅したが、レプリカは残っている。それは町立文化会館の二階、視聴覚室の片すみに無造作においてあった。

「純金カツオも過疎化の抑止力になるほどの威力はなく、人口は減り続けて、現在七五〇〇人です」(前出・課員)

今にして思えば、「ふるさと創生」一億円は、同時進行中だった消費税導入という大物釣りをするためにバラまかれた「まき餌」ではなかったか。純金カツオは泥棒に横取りされたが、いずれにせよ誰かに〝食われる〟のは避けられぬ運命だったという気がする。

共同通信社

▲「ふるさと創生」資金で作られた、ありし日の純金カツオ。これが県に買い上げられ、盗難にあう。

ベストセラー
全編を通じて漂う〝寂しさ〟村上春樹『ノルウェイの森』

前年の昭和六二年九月に刊行された村上春樹の長編小説『ノルウェイの森』が読者に支持され、この年のベストセラー上位に進出した。著者自身によると「さらりとした恋愛小説」を書きたかったそうだが、実際にはかなり重いところもある青春小説だった。

高校時代に友人が自殺した時に「死は生の対極としてではなく、その一部として存在している」ことを感じた主人公の〝僕〟は、どこかさめた学生時代を送ることになる。自殺した友人の恋人だった直子は、やがて精神を病んで療養所に入るが、彼女との主として手紙を介しての交流は、深く、重かった。そしてこの小説の後半ではちょっと謎めいたところのある女子大生の小林緑が、大きな存在となる。やがて「僕はどこでもない場所のまん中から緑を呼びつづけて」この小説は終わるのだが、そのラストシーンに象徴されるような寂しさが、全編を通じて感じられる青春小説であった。

エンターテインメントとしては、西村京太郎の『十津川警部の挑戦』が評判になった。すでに〝十津川警部もの〟は人気シリーズだったが、この作品は、二〇年前の事件がカギを握っているという設定で、「ラブユー東京」や「命かれても」など当時の流行歌まで引用して、読者にタイムスリップを楽しませた。

昭和六二年七月に亡くなった〝スーパースター〟石原裕次郎の、闘病時代を含む思い出を記した『裕さん、抱きしめたい』もこの年話題になった。著者は石原裕次郎の妻、石原まき子（北原三枝）で、これまで秘められていた闘病の事実を明らかにし、当時の写真も掲載するなど、ファンにとっては待望の本だった。

●昭和63年のベストセラー

順位	書名（著者／出版社）
1位	「こんなにヤセていいかしら」（川津祐介／青春出版社）
2位	「ノルウェイの森（上・下）」（村上春樹／講談社）
3位	「ゲームの達人（上・下）」（シドニィ・シェルダン／アカデミー出版）
4位	「私の人間学（上・下）」（池田大作／読売新聞社）
5位	「裕さん、抱きしめたい」（石原まき子／主婦と生活社）
6位	「ダンス・ダンス・ダンス（上・下）」（村上春樹／講談社）
7位	「金子信雄の楽しい夕食」（金子信雄／実業之日本社）
8位	「頭が突然鋭くなる右脳刺激法」（品川嘉也／青春出版社）
9位	「あなたは3日間で巨人軍と別れられる」（桂三枝／青春出版社）
10位	「十津川警部の挑戦（上・下）」（西村京太郎／実業之日本社）

全国出版協会出版科学研究所

▲『ノルウェイの森』（上・下各1000円）

▲『裕さん、抱きしめたい』（1800円）

▲『十津川警部の挑戦』（上・下各714円）

スターと名場面
心にしみるファンタジー「となりのトトロ」大人気！

心にしみる映画が評判を呼んだ年だった。「となりのトトロ」（宮崎駿監督）は、昭和三〇年代の農村を舞台にしたアニメ・ファンタジーで、急激な都市開発が進み田園風景が失われていく時代に生きる、多くの人々から支持された。農村の一軒家に引っ越してきた父と二人の幼い娘が（お母さんは病気療養中）、大自然との触れ合いの中で体験する夢のような出来事を、アニメならではの美しい風景を背景に描き出した作品だった。

やはり大きく変わっていく時代を背景にして描かれたファンタジー「異人たちとの夏」（大林宣彦監督）も話題になった。こちらはアニメでなく実写で、今は亡き父と母が戻ってきて現実の世界と交錯する物語。幻想も現実も同じように見せられる、映画ならではの作品だった。

昭和二〇年八月八日の長崎を舞台にした「TOMORROW　明日」（黒木和雄監督）は、原爆が投下される前日の人々の様子を、淡々と描いた映画。明日が来るのを当然のこととして今日を生きた人々に、その翌日の朝、強烈な光が襲いかかるのであった。

この年、ほかに次のような作品が公開された。かっこ内はおもな出演者など。「火垂るの墓」（アニメ）「快盗ルビイ」（小泉今日子）「ラストエンペラー」（ジョン・ローン）

©二馬力・徳間書店

▲「となりのトトロ」で、トトロにつかまって飛ぶサツキとメイ。誰もが夢見るシーンだった。

松竹提供

▶「異人たちとの夏」で、現世に蘇った父親役の片岡鶴太郎（左）と母親役の秋吉久美子（右）。中央にその子ども役の風間杜夫。

©ライトヴィジョン　沢井プロダクション　創映新社

▲「TOMORROW　明日」で、新婚夫婦を演じた佐野史郎（左）と南果歩。

モノ語り'88
「リンクルガード」「セ・パ・レ」「ファイブミニ」「マイ・カロリー」
家事も健康も手軽で便利！

◀**万歩計がさらに進化した**　歩数をはかるだけでなく、走ったり歩いたりする速さ、つまり運動強度によって変わる消費カロリーを表示する、新しい歩数計「マイ・カロリー」が山佐時計計器から発売された。内蔵したマイコンが、1歩に要する時間から、その速度と消費カロリーを瞬時に計算するというもの。利用者の体重も1キロ単位で入力できるので、その人の消費カロリーが、より正確に算出できるようになった。1個3900円だった。

▲**食物繊維が手軽な健康飲料に**　食物繊維をたっぷり含んだ健康飲料「ファイブミニ」が大塚製薬から発売され、人気を呼んだ。食物繊維は、栄養素ではないが、消化吸収に大きな役割をはたす成分として注目されるようになった、食品中の高分子成分。この商品名も、食物繊維を表すダイエタリー・ファイバーから生まれた。1本100ミリリットル入り100円で、食物繊維ブームのはしりともなった。

▲**アイロンからコードがなくなった**　コードがあることによって使いにくい面もあったアイロンの分野に、松下電器産業がコードレススチームアイロン「セ・パ・レ」を登場させた。本体からコードをなくし、軽量コンパクト化をはかったため、細かい仕上げも簡単にできるようになった。充電はアイロンをスタンドにおいている時にできた。1台2万2000円だった。

▲**赤ちゃんがかわいく撮れるフィルム**　全自動コンパクトカメラの普及で急速に高まった女性のカメラ利用率と、育児期に最も利用される傾向をとらえて、コニカは「コニカカラーGX100－M ママ撮って」を発売し、ヒットさせた。諧調を柔らかくし、色の再現性を高めた。感度はISO100で、24枚撮り620円。

▼**好景気時代のステータスシンボルが登場**　この年1月に日産自動車が発売した高級車「セドリック・グロリア　シーマ」が、4車種とも500万円前後の価格ながら好評で、メーカーの予想を大幅に上回るヒット商品となった。〝日本的な味を持った世界に通用する新しいビッグカー〟というコンセプトが、高収入に見あう高級感と、自分で運転する機能性を求めていた新しい需要層を、みごとに掘り起こしたのである。

◀**半分の手間で髪が洗える**　この年3月に資生堂が発売した、シャンプーとリンスを一体化した洗髪料「リンプー」が爆発的にヒットした。〝朝シャン〟を日常的な行動に取り入れるようになった若い女性たちを中心に、その手軽さが歓迎されたのである。しかしそれによって、シャンプーとリンスを使い分ける洗髪が少なくなるというわけではなかった。3種類の香りがあって、それぞれ60ミリリットル入り400円と、300ミリリットル入り1500円だった。

▲**衣類のしわとりも手軽に**　スプレーするだけで衣類のしわをとることができる「リンクルガード」が、3月にライオンから発売された。衣類をハンガーにかけスプレーした後、しわの部分を手でピンと引っ張って伸ばしておくだけで、10～20分後にはスプレーが乾き、しわがとれるというもの。80ミリリットル入り350円、230ミリリットル入り550円と、価格も手頃だった。

人物クローズアップ

鈴木健二（五九）

学生時代からの夢を求めてNHKから「気くばり」転身

昭和六三年一月三一日、鈴木健二（五九）はこの日、三六年間つとめたNHKを定年退職した。かつて鈴木は、「六〇になって定年を迎えたら、枝振りのいい松の木をさがして、首をくくろう」と、本気で考えていた。自分にはもう、自分を育てる能力などはないと思っていたし、人様のやることを、腕組みして眺めているタイプでもなかったからだと言う。

その鈴木が、定年から六ヵ月後の七月一日、熊本県立劇場の館長に就任した。

鈴木には、学生時代から抱き続けたひとつの夢があった。旧制高校の時に、孤児院へ社会奉仕に行った時のことである。十二、三歳の精神障害の少女がいた。その少女はみんなの洗濯物を引き受け、いつも黙々と洗っていた。指はしもやけとあかぎれで膨れ上がり、血がにじむほどに傷んでいた。「ありがとう」と言うと、かすかに微笑んだように思えた少女。その少女が、まもなく交通事故で亡くなった。鈴木はその少女から、言葉には表せない大きなものを学んだ。

「私は先祖代々の江戸っ子ですが、戦中戦後の青春時代をみずから求めて、みちのくの大自然の下で暮らしました。緑に包まれた自然の中で社会奉仕活動ができたら、と夢に描いていました」

その夢は鈴木の心にずっと生きていた。

鈴木健二は、昭和四年一月二三日、東京市本所区（現・江東区）生まれ。六歳年上の兄で映画監督の鈴木清順によると、子どもの頃の鈴木は、体が弱く、引っこみ思案で無口な子どもだったという。二〇年、旧制弘前高等学校入学。卒業後、東北大学文学部美学美術史学科入学。在学中は演劇部に所属した。台詞のおぼえがめっぽう早かった。そして、二七年にNHK入局。

アナウンス部に所属した鈴木の、最初の赴任先が熊本だった。昭和三一年、東京に戻り、ラジオの人気番組「話の泉」を担当する。知識、ユーモア、機転が要求されるこの番組は、ベテランでもむずかしい。わずか入社五年目だったが、鈴木の能力は際立っていた。驚異的な記憶力、頭の回転の速さ、細心の注意力。

鈴木の担当したテレビ番組で、その能力を見せつけたのが「クイズ面白ゼミナール」と「歴史への招待」である。ポンポンと機関銃のように、次から次へと飛び出す十数ケタの数字。視聴者も出演者も、その人間ばなれした記憶力とたくみな番組進行に舌を巻いた。

鈴木には一五〇冊にのぼる著書がある。中でも、昭和五八年発行の『気くばりのすすめ』は、三〇〇万部を超える大ベストセラーとなった。それから一五年、「現在は、世の中で最も大切な〈自分〉はますます弱くなり、他人は遠い存在になっています。今こそ真の気くばりを」と鈴木は語る。

熊本県立劇場館長の鈴木は、無給だった。過疎と後継者不足のため消え去ろうとしている伝統芸能を守り、村や町を再び活性化させたいと願い、そのため、鈴木はこれまで原稿料や講演料のすべてを投入してきた。すでにいくつかの伝統芸能は保存され、そして館長就任から一〇年、平成一〇年四月、鈴木は「二一世紀に向けて、次代に譲りたい」と辞意を表明した。新たな〝転身〟である。

▲昭和60年の第36回紅白歌合戦で、泣きながら歌い終った森昌子（左）をいたわる鈴木アナ。中央は中森明菜。　NHK提供

◀この年七月一日に就任した熊本県立劇場の館長室で。NHK時代は、〝鈴木節〟と言われた独特の語り口で人気を集めた。現在は、熊本の文化振興に奮闘中。　芥川仁

決定的瞬間

イラク軍、毒ガスを使用！五〇〇〇人が犠牲となったクルド〝ハラブジェの虐殺〟

◀1988年3月17日、イランとの国境に近いクルド人の町、イラク・ハラブジェで、イラク軍の毒ガス使用により、約5000人のクルド人が犠牲になった。

ラマザン・オズチュルク　SIPA　オリオン・プレス

写真の幼児は眠っているのではない。毒ガス（化学兵器で撒布された青酸ガスやマスタード・ガス）によって呼吸困難を起こし、死亡したのだ。一九八八年三月一七日、イラク北東部のハラブジェ（人口七万人）という国境の町には、子どもをかばっておおいかぶさるようにして死んだ老人、家の前で倒れている女性など、約五〇〇〇人のクルド人住民が毒ガスによって死亡し、生き残ったものも呼吸困難、嘔吐、視力障害などに苦しんでいた。

クルド人の独立運動を弾圧してきたイラク政府は、このハラブジェにおける住民虐殺は、「越境してきたイラン軍の野蛮な砲撃が原因である」と主張し、化学兵器の使用を否定していた。しかし、米国人カメラマンのラマザン・オズチュルクが撮影したこの一枚の写真は、イラク軍が毒ガスでクルド人を虐殺した事実を、幼児の死をもって告発している。

イラン・イラク戦争は一九八〇年の九月に始まり、実に八年にもおよぶ消耗戦であった。交戦の直接のきっかけは国境問題だが、前年にイランがパーレビ国王を追放してイスラム共和国を成立させたことが大きな要因となっている。

イラクのフセイン大統領は、イラン革命によってイラン国軍が壊滅状態（兵員数五〇パーセント、装備二〇パーセントまで減少）になっているこの機会こそ、イランを倒してペルシャ湾を制し、湾岸地域にイラクの覇権を確立する絶好の機会ととらえたのだ。そのため八〇年九月に不意をつく形でイランに攻めこんだのである。一方イランはホメイニ師を中心に「〝バグダッドの悪魔〟と徹底的に戦うべし」と国内の団結を強めた。

ところで、イラン・イラク戦争の底流には、クルド人の独立問題も深く関与していた。クルド人はイラン、イラク、トルコ、シリア、旧ソ連の五ヵ国にまたがるクルディスタン地方という山岳地帯に居住し、約二〇〇〇万人という大きな人口を抱える民族である。彼らが居住地域の独立を主張すると、周辺地域の国家は大打撃を受けることになる。

イラク国内には、東北部に二八〇万人のクルド人がいて、「クルド愛国連合」「クルド民主党」などが、イラン側と協調しながら独立のためのゲリラ活動を行っていた。

イラクとしては、こうしたクルド人を何としても封じこめなくては、国家が内部から崩壊しかねないという事情を抱えていた。イラン・イラク戦争が終結を迎えようとしていた一九八八年三月に、イラク軍がクルド人の町を毒ガスで攻撃するという蛮行に走ったのは、こうした背景があったからだ。そして同年の八月にイランとの停戦が実施されると、イラクは同国クルド人への弾圧をますます強化していった。

イラク軍の化学爆弾使用には、〝前科〟がある。一九八四年二月にイラン軍に使用して一二〇〇人の兵士を死亡させたのだ。さらに、イラン軍の報告によると、八七年四月から八八年四月までの一年間の化学兵器使用は、実に六七回に達したという（『クルド民族』亜紀書房）。国連はイラクに対して、化学爆弾使用に関する非難決議をしているが、クルド人への化学爆弾攻撃に関しては、イラク政府は否定し、事実は曖昧なまま忘れ去られようとしている。

美の出会い

二体の人骨、金銅の冠や履！一四〇〇年のベールをぬいだ藤ノ木古墳、開棺の「大興奮」

昭和六三年の秋は、奈良県生駒郡斑鳩町の藤ノ木古墳の話題でもちきりだった。そのピークは、一〇月八日の石棺が開かれたというニュースである。新聞各紙の夕刊は一面のトップで報道。「朝日新聞」は「藤ノ木古墳石棺開く」「足元に金銅製の沓」という大見出しを出した。

▲昭和60年の第1次調査で発見された金銅製透彫鞍金具。竜や鳳凰、象、虎などの文様が透かし彫りされ、東アジア各地のモチーフが取り入れられている。　奈良県立橿原考古学研究所提供

真っ赤に水銀朱が塗られた石棺内からは、二体の人骨のほか、まばゆいばかりの金銅製の履や大帯などの装身具千数百点以上、大型空玉、梔子玉などの玉類三四〇点、ガラス玉各種一万四八〇〇点以上、鏡四面、大刀五振、剣一振におよぶ副葬品が現われた。予想外だったのは、被葬者二人の合葬だったことである。

藤ノ木古墳は、法隆寺の西三五〇メートルのところにあり、地元では古くからミサキ（御陵）、ミササキヤマ（陵山）と呼ばれていた。造営年代は六世紀中頃から七世紀初めの間とされていたが、現在では五七六～六〇〇年と推定されている。直径四八メートル、高さ九メートルの円墳で、全長一三・九五メートルの石室があり、ここに家形石棺が納められていた。

この〝藤ノ木古墳フィーバー〟は、四年越しのもので、昭和六〇年の第一次調査が行われた時に始まる。この時、石棺と奥壁の間から、金銅製透彫鞍金具などの馬具が発見されたのだった。この鞍は東アジアでも類例のない豪華・繊細なものだったため、石棺内の被葬者は誰か、どんな副葬品が納められているか、中国や朝鮮半島とのつながりなどについて、人々の関心が高まった。

さらに昭和六三年六月二日、石棺の蓋と棺の隙間に、直径八ミリの穴をあけてファイバースコープで内部を調査。水につかった人骨や金色の副葬品が確認された。その様子は、詰めかけた五〇人を超える新聞・テレビの報道陣に公開され、現場の興奮した雰囲気が全国に伝えられた。新聞には「石棺内に金銅製冠」「大量の副葬品眠る」「夢ふくらむ古代の宝箱」（「朝日新聞」六月三日）といった見出しが躍った。

このようにすでに国民の大きな関心と期待を呼び起こしていた藤ノ木古墳で、一〇月八日、ついに石棺の蓋が開かれたのである。今回の開棺調査は九月三〇日から始まった。そして一〇月七日午後一時すぎから、石工職人の手により開棺作業が続けられ、八日午前一時すぎに蓋は無事に開かれた。こうした調査の状況は、すべてビデオや写真におさめられ、ただちに全国の茶の間にも流されていった。

調査主任の奈良県立橿原考古学研究所の前園実知雄氏は、この時の感想を次のように記している。

「おさえきれない感動のなかで棺内に目をやった。目のさめるような朱色の空間が広がる棺内には、底のほうに一〇センチほどの透明な水が覆っている。水底には、全面に、黄色い泥を薄くかぶった品々が、ところ狭しと詰まっていた」（『日本の古代遺跡を掘る5　藤ノ木古墳』読売新聞社）

一一月一二日、一三日は日本考古学協会員を対象に見学日にあてられ、一二三五人が訪れる。また一二月一七日、一八日には一般見学者に作業風景を公開し、約五〇〇〇人が押し寄せた。

人々の関心は、もっぱら「被葬者は誰か？」という点に向けられ、新聞各紙では、崇峻天皇をはじめ、地縁から膳氏、山部氏、額田部氏など数多くの名があげられた。その後の調査で、形質人類学の片山一道氏により、北側の被葬者は一七～二五歳の男性、南側のは二〇～四〇歳の男性の蓋然性が高いという報告がなされた。この片山説を受けて、白石太一郎国立歴史民俗博物館教授は、この鑑定結果が正しいという前提に立つなら「藤ノ木古墳の被葬者が、穴穂部・宅部両皇子である可能性はきわめて高いと考えている」と記す（同前書）。欽明天皇の皇子・穴穂部と、宣化天皇の皇子・宅部は、五八七年に蘇我馬子により殺害されるという事件が起こっているのである。

発掘から一〇年がすぎた今、前園氏は藤ノ木古墳の持つ意味を語ってくれた。「藤ノ木古墳は前例がほとんどない未盗掘の古墳だったため、ほかの六世紀の古墳を調査する時のスケール（物差し）としての役目をはたす貴重な古墳です」

奈良県立橿原考古学研究所提供

▲発掘が開始される前は、農家の果樹園になっていた藤ノ木古墳。

▲溜まっていた水が抜き取られ、清掃された家形石棺内。一方の端に金銅製の冠や大帯、履があり、両脇には大刀がおかれている。　奈良県立橿原考古学研究所提供

27歳のフィリピン女性はなぜ死体で発見されたか
流入するアジアからの「不法就労者」たち！
急増する“じゃぱゆきさん”の悲劇

◀昭和61年6月の成田空港到着ロビー。マニラからの便が到着すると、不安そうな表情のフィリピン女性たちが、出迎えの男に連れられてマイクロバスへ。この頃、こうした風景がよく見られた。

共同通信社

昭和六三年三月五日、法務省は六二年度の出入国管理法違反事件統計を発表した。摘発者は約一万四〇〇〇人。「不法就労」者として日本各地に潜伏する、アジアからの出稼ぎ労働者の悲劇も続出した。とりわけ風俗産業に従事する女性たち、戦前の「からゆきさん」から転用された、いわゆる「じゃぱゆきさん」の自殺・逃亡といった悲惨な状況は、今も日本の「国際化」に大きな疑問を投げかけている。

「不法就労」の弱み 売春などの強要も

昭和六三年四月一九日午後八時三〇分頃、静岡市吉野町の野口アパートで、若い女性が死んでいるとの通報が静岡中央署に入った。死体で発見されたのはフィリピン人のスナック手伝い、マリア・メルセデス・クルーズさん（二七）。届け出たのは、以前にマリアさんがアルバイトとして働いていた同市内のパブ経営者・林忠勝さん（四四）。マリアさんは三月まで大阪で働いていたが、体をこわし、静岡に戻ってきていた。調べによると、死後一〇日以上たっており、死因は栄養失調による心不全だった。

彼女が観光ビザ（滞在期間一五日）で日本に入国したのは、昭和六〇年六月。各地のスナックを転々とし、不法残留は三年近くにおよんでいた。同僚だったホ

20世紀博物館

台東区立下町風俗資料館 東京・台東区

「座り流し」「張り板」「荒神様」など暮らしの記憶を再現

桑原茂夫

▲駄菓子屋の店先。奥の座敷に上がることもできる。人が生活していた空間を、忠実に再現。 但馬一憲

東京の上野公園は不忍池のほとりに、この「下町風俗資料館」がある。東京の下町は、二〇世紀において、二度の潰滅的打撃をこうむっている。大正一二年の「関東大震災」と、昭和二〇年の「東京大空襲」である。そして昭和四〇年代頃からは、町そのものを作り変えてしまうような再開発が進められ、下町はほとんどその姿を消した。しかし、どんなに大きな変化が起ころうとも、そこに積み重ねられた人々の記憶は消えない。その記憶を具体的な形として表したのが、この「下町風俗資料館」であり、再開発の嵐が吹き荒れる昭和五五年に開設された。

館に入るとすぐに、ポンプ井戸が目に入る。今ではほとんどの町から消えてしまったが、かつてはこの水場を中心に、下町独特の「長屋」という小さな共同体がいとなまれていた。

▲長屋の一角にポンプ井戸があり、そのそばにはかまども見える。向こうに洗い張り用の「張り板」が見える。ここは、井戸端会議の場でもある。

そしてこの資料館でも、井戸ポンプの手前の路地を入ると、長屋になっている。「大震災」と「戦災」の洗礼を受けたにもかかわらず昭和五〇年代にまだその姿を残していた、台東区橋場の町の長屋がモデルだ。

▼鼻緒問屋の店先。人力車や箱車がとめられてある。にぎやかに人の行きかった通りである。

路地の入り口に近い家は、駄菓子屋さんを模して作られており、並べられている駄菓子に、レトロ感覚の興味も湧くが、実はこの家には典型的な庶民の生活様式が詰まっているのである。

たとえば炊事空間だが、土間が「座り流し」になっていて、簡単な炊事はここでするようになっている。そして不要になった水は、路地に掘られたどぶに流れる。七輪で火を使う時は、天の引き窓を開け放って煙を逃がしてやる造りになっていて、狭い家屋には不可欠の仕掛けだった。その日に食べる残り物は、棚の上の金網つき貯蔵箱に入れる。風通しをよくし、ネズミなどに食べられないようにする工夫だ。

また、家の前の路地には「張り板」が立てかけてある。衣服が汚れると、糸をほどいて布地の状態に戻しきれいに洗った。その後フノリで糊づけをして「張り板」に張って乾かす。「洗い張り」の最終段階である。面倒なようだが、無駄のない、合理的なリメイク作業だった。

路地の奥には、小唄の師匠が住んでいるという設定で、その家からは三味線の音が流れてくる。長屋は狭い空間だったが、人々の心にはそういう習い事をする余裕があったというわけだ。

またその隣はドウコ（銅壺）屋さん。居住空間のすぐ脇で、鍋、釜の修理をやっていた。土間にはフイゴがあって、町の小さな鍛冶屋さんといったところだ。

路地の奥には稲荷神社があって、長屋の人々の信心深さが伝わってくる。そういえば、駄菓子屋さんの壁にも、ドウコ屋さんの壁にも、荒神様が祀ってあった。火から家屋を守る神様で、木と紙でできた家には大切な存在だったのだ。

ほかにも下町を往来する乗りものの類が展示してあったり、町を行く物売りの声が聞こえたり、下町のにぎやかさを感じさせるミュージアムである。

▲鍋や釜の修繕などを行うドウコ屋の土間。職住一体の、まさに家内制手工業の一形態がここに見られる。

●台東区立下町風俗資料館
東京都台東区上野公園二番一号
☎〇三―三八二三―七四五一・七四六一
JR線上野駅・京成電鉄上野駅・地下鉄上野または上野広小路駅から、徒歩五分
開館時間＝九時三〇分～一六時三〇分
休館日＝毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は、翌日）、年末年始
入館料＝一般二〇〇円

ステスたちによると、マリアさんは祖国に残してきた子どもの写真を見せながら、かたことの日本語で「この子と両親に仕送りするため来日した」と話し、不法滞在がばれるのをおそれ、「オモテハキライ」と、ほとんど外出しなかったという。

法務省は、昭和六三年三月五日、六二年度の不法就労者などの実態を発表した。入管法違反で摘発された外国人は、前年比三三・六%増の一万四一二九人。そのうち約八〇%にあたる一万一三〇七人が「不法就労」によるものだった。また六三年の摘発者は一万七八五四人、うち不法就労者は一万四三一四人で、男性は八九二九人、女性が五三八五人。年齢別では男性が二〇歳代後半、女性では二〇歳代前半が最も多かった。女性の国籍別の内訳ではフィリピンが断然多く三六九八人、次いでタイが一〇一九人、そして台湾、韓国の順であった。

彼らは、不法就労であるため、不当な仕打ちにあっても被害を訴えにくい、という弱みにつけこまれる。特に女性は賃金不払い、売春の強要、暴力などの悪質な被害を受けていた。

「アジアの女性たちはけっして売春のため日本に来るのではありません。それは貧困がもたらしたものです。人身売買のような形で、ブローカーにだまされ、就労斡旋のため二〇〇万円から四〇〇万円ほどの借金を背負わされ、がんじがらめにされるのです。暴力や賃金の不払いから店を逃げ出し、私どものところに駆けこんでくる女性たちは、多い年には三〇〇人、今でも一〇〇人にのぼります」

こう語るのは東京・新大久保にある「日本キリスト教婦人矯風会女性の家『HELP』」の東海林路得子代表である。

当時、フィリピンの失業率は一一%、首都・マニラでは三人に一人が失業の状態だった。政府が定めた最低賃金は、一日六五ペソ(約四五〇円)。一家六人の生活費は月四八八〇ペソ(三万四一六〇円、世界銀行調べ)が必要とされていたが、市民の七、八割は最低生活費以下での生活を余儀なくされ、マリアさんのように“金満国”日本へと流出したのである。

▲埼玉県蕨市の在日韓国人が経営するキムチ工場で働くイラン人たちが、マイクロバスの中で、手配師から給料を受け取る。 今枝弘一

◀昭和62年4月、不法滞在で入国管理局の係員に摘発されるフィリピン女性。名古屋市中区のマンションで。

共同通信社

悪質な労働・居住環境 日本の「国際化」に疑問

日本への入国の背後には、「リクルーター」や「ブローカー」と呼ばれる、悪質な斡旋業者が暗躍した。とりわけ風俗産業の需要を満たすため、風俗店や暴力団系芸能プロなどから依頼を受けたブローカーは、一人につき五〇万円の費用を受け取っていた。一回一〇人の女性を連れてくると五〇〇万円、渡航手続きなどの必要経費を引いても、ブローカーの手元には半分の二五〇万円は残ったという。

一方、日本に渡った女性たちは滞在期間をすぎると、パスポートを取り上げられて身柄を拘束されたり、「回し屋」と呼ばれる引き抜き屋にねらわれ、東京から地方へ売り飛ばされることもあった。

女性に限らず、実際の作業を通して技術習得の教育を受けるという名目で来日しながら、劣悪な「労働条件」を強いられる技術研修生も多かった。

それは「賃金」面で顕著であった。川口市の鋳物工場で働く二人の中国人の給料は、月五万円。大阪のゴム工場で働く七人の韓国人に支払われていたのも、月五万円にすぎなかった(「朝日新聞」平成元年六月二〇日)。長野県の電器部品工場のスリランカ女性たちにいたっては、休日出勤、残業もあったのに、食事・住宅を与えられた以外に月五〇〇〇円程度の小遣いしかもらえないという状態であった(「毎日新聞」昭和六三年二月一三日)。

▶横浜のドヤ街に住むアジアからの労働者。宿泊代は一泊六五〇円。彼らは、日本の基本的人権の枠外にあった。

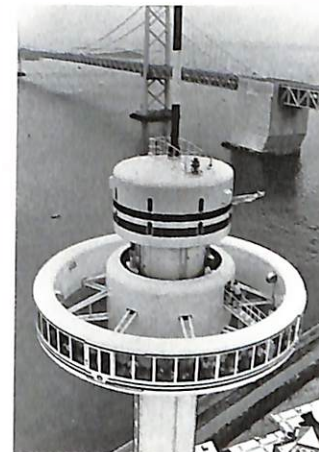
今枝弘一

居住環境も劣悪だった。六三年五月に行われた集中摘発例の中には「埼玉県蕨市のアパート二棟二七室にバングラデシュ人一九九人とインド人一人が固まって住んでいたものもあった」(「朝日新聞」昭和六三年六月六日)。

なぜこういうことが起こるのか。一橋大学の田中宏教授は「昭和六〇年のプラザ合意による円高の進行、少子化による若年人口の減少、三K(キツイ、キタナイ、キケン)労働の忌避などが加わった、日本の構造的変化によってもたらされたものです。もう、日本は外国人なしでは成立しえない社会になりつつあります。一方で、職を求める彼らに対する差別・偏見はいまだに根強く、これをいかに克服し、ともに生きる社会をどう築くかを問われているのです」と語っている。

ちなみに法務省入国管理局の調査によれば、平成九年七月一日現在の不法残留者数は二八万一一五七人で、そのほとんどが「不法就労者」とみられている。不法残留者の調査開始年度である平成二年七月一日現在の一〇万六四九七人に比べ、わずか七年間で約三倍近くにも膨れ上がっているのである。

フォト＋日録で再現する366日

▼**瀬戸大橋博の展望塔で、102人缶詰め(7月17日)** 回転式昇降キャビンが、地上105メートル付近で立ち往生。乗客は主塔内にある作業用昇降機で脱出、怪我はなかったが、全員救出は6時間半後だった。展望塔は博覧会の売りもの。瀬戸大橋付近の眺望を堪能できた。

▲**北陸自動車道全通(7月20日)** 未開通の約60キロの工事が終了、新潟県黒埼町から滋賀県米原町へいたる476キロがつながった。写真は、越中境パーキングエリアでの開通式。

▼**フィリピンからの花嫁(7月25日)** 新潟県松代町で、10組の合同披露宴。深刻な嫁不足に悩む北陸や東北の農家で、この頃、日比国際結婚が急増。しかし、夢破れて故国へ帰る花嫁もいた。

▼**中2少年が両親と祖母を惨殺(7月8日)** 東京・目黒の会社役員宅(写真)で、深夜、3人を包丁でめった刺し。ふだんは「いい子」だったため、先生・同級生らの衝撃は大きかった。

▲**自衛隊潜水艦「なだしお」、釣り船と衝突(7月23日)** 現場は、東京湾の浦賀水道航路西側。遊漁船「第一富士丸」の乗員・乗客30人が死亡した。平成6年、東京高裁は原因を潜水艦の不当な運航とした。

▼**北海油田大爆発(7月6日)** 英スコットランド沖の石油基地施設が大破、海中に没し、死者・行方不明者166人という洋上石油施設事故では最悪の結果となった。原因は、居住棟のガスもれと言われた。

昭和63年7月

1(金)●NTTデータ通信、開業。
2(土)●羽田空港に新A滑走路が完成、使用開始。
3(日)●米軍艦、イラン旅客機をイラン戦闘機と誤認して撃墜。二九〇人死亡。
4(月)●第一回火の玉国際シンポジウム、早大で開催。
5(火)●農水省、中海・宍道湖の干拓、淡水化を中止。
6(水)●「朝日新聞」、中曽根康弘・安倍晋太郎・宮沢喜一のリクルート疑惑を報道。江副会長辞任。
7(木)●富豪世界一は二年連続で西武鉄道グループの堤義明、一〇位までに日本人五人と米経済誌。
8(金)●東京都目黒区で中二男子が父母と祖母を刺殺。
9(土)●川崎球場借り切りのフリーマーケット開催。
10(日)●病院の診療もカード時代、病歴などを磁気カードに記録するシステムが完成、と新聞に。
11(月)●生保協会、契約高一〇〇〇兆円突破と発表。
12(火)●広島駅で暴力団員が銃乱射。市民ら四人負傷。
13(水)●前年転職者は過去最高の二六五万人と総務庁。
14(木)●自治省、給与・退職金が高すぎる自治体・団体一三一を公表、是正を指導。
15(金)●平塚市の山城中学に、同校生徒にいじめられていた男が刃物を持ち乱入。生徒八人負傷。
16(土)●東京都、全国初のエイズ相談員制度を発足。
17(日)●二〇年ぶり全面改定の日米新原子力協定発効。使用済み燃料の処理などで条件を緩和。
18(月)●ニューヨークの観光客は日本が一位と米紙。
19(火)●学校制服に森英恵らデザイナー進出と新聞に。
20(水)●広島・島根県に豪雨。二〇人死亡・行方不明。
21(木)●大阪の梅田地下街で火災。買物客五万人避難。
22(金)●「ワシントン・ポスト」紙、サンリオの「ちびくろサンボ」を黒人差別と批判(23日製造中止)。
23(土)●横須賀港沖で潜水艦「なだしお」と釣船「第一富士丸」が衝突。釣船沈没し三〇人死亡。
24(日)●米軍厚木基地を二万人が人間の鎖で囲む。
25(月)●幼稚園児の稽古事費が二年で四割増と東京都。
26(火)●伊豆半島沖で群発地震。九月までに約二万回。
●岐阜県白川町で皇太子妃警護に向かう警官が目前の川でおぼれる児童を救わず、水死。
27(水)●野村証券、企業の合併・買収を専門に行う日本初のM&A会社設立と発表。
28(木)●福岡高裁、収賄の元宮崎県知事に逆転無罪。
29(金)●総評大会、連合へ移行のため翌秋解散と決定。
30(土)●「朝まで生テレビ!」で「徹底討論・原発」放映。
31(日)●関東以北梅雨明け。東京の七月の日照時間は観測史上最少に。

証言・あの日この日

上野千鶴子(39)

5月16日(月) 〈アグネス・チャンさんが、職場や講演に幼い息子を連れて歩いていることを、マスコミ界きっての才女、林真理子さんと中野翠さんが週刊誌などで批判している。山田詠美さんも月刊誌の中で、アグネス批判に同調している。／アグネス擁護の声が小さいのが気にかかる。ここは買ってでも、アグネス擁護にまわりたい〉(上野千鶴子「働く母が失ってきたもの」)

80年代フェミニズムの旗手・上野千鶴子にとって、アグネスの「子連れ出勤」論争はかっこうのテーマだった。上野はこの日、「朝日新聞」の「論壇」欄に投稿し、林真理子ら「プロの職業人」の立場からの「甘ったれるな」というアグネス批判に反論。林らの主張が正論であることを認めつつも、〈男たちが「子連れ出勤」せずにすんでいるのは、だれのおかげ〉か、と問う。(山崎行太郎)

▲**中日―大洋、史上最長ゲーム(8月4日)** 延長11回、大洋が5点目を入れると、その裏、中日・彦野が本塁打。互いに譲らず、12回裏、中日・小松崎の右飛でやっと引き分け。試合時間5時間21分だった。

▶**天皇、全国戦没者追悼式に出席(8月15日)** 東京・九段の日本武道館に集まった、遺族など約7400人が見守る中、「今なお胸が痛みます」と述べられた。前年の開腹手術以来初の公式行事で、ご自身の強い意志による出席だった。

▼**西独の航空ショーで大惨事(8月28日)** 30万人の観客の頭上で、伊空軍曲技飛行チームのジェット練習機3機が接触。1機が客席に突入・炎上したため、死者51人、重軽傷者は400人以上にものぼった。

▲**イラン・イラク戦争停戦(8月20日)** 国境紛争を契機に1980年から約8年間続いた戦闘が、国連安保理決議に基づいてやっと終結。互いの誤算が招いた泥沼化の犠牲者は、100万人を超すと言われる。写真は、お祭り騒ぎになった前夜のバグダッド。

▼**中野浩一、獲得賞金10億円突破(8月3日)** 青森市営競輪場で開かれた全日本選抜競輪で優勝、プロ選手初の快挙達成となった。中野は32歳。昭和50年に競輪デビュー、世界選手権自転車競技大会プロ・スクラッチで10連覇をなしとげた。

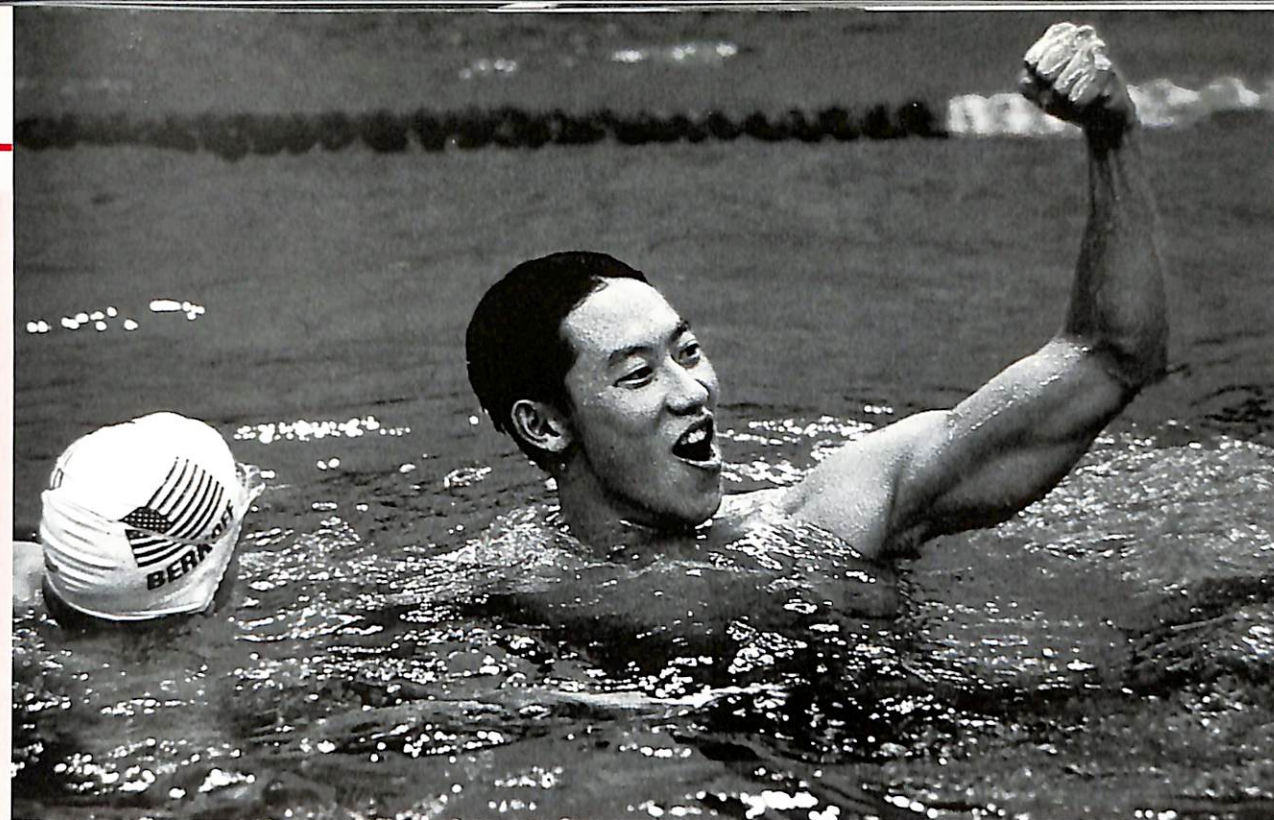
昭和63年8月

1(月)●産学共同研究進み五年で七倍、と新聞に。
2(火)●米黒人議員連盟、渡辺美智雄の黒人侮蔑発言に抗議し日本製品不買運動を検討と表明。
3(水)●外務省、「ホピ独立国」などの旅券で入国求める米先住民の平和運動家四人の入国を認める。
4(木)●中日対大洋戦が史上最長の五時間二一分記録。
5(金)●大阪市、外国企業誘致に英文パンフを作成。
6(土)●公取委、菓子のおまけ「ビックリマンシール」は子どもの射幸心をあおると業者に中止を指導。
7(日)●長距離通勤ふえ新幹線定期値下げもと新聞に。
8(月)●日本テレコム、JR四駅に公衆電話設置。
●JR千葉駅、発車予告ベルを廃止。
9(火)●青森・秋田両県、青秋林道着工見送りで合意。
10(水)●科技庁、六ケ所村ウラン濃縮工場に事業許可。
●米大統領、第二次大戦中の日系人強制収容補償法に署名。生存六万人に各二万ドル補償。
11(木)●運輸省、在来線活用など整備新幹線案を公表。
12(金)●外国人の就職先の八四%は興行関係と法務省。
13(土)●韓国現代自動車からの初輸入車が名古屋到着。
14(日)●現業部門労働時間は年間二一七八時間と連合。
15(月)●警視庁、富士銀カード偽造で電算技術者逮捕。
16(火)●岡山県人形峠のウラン採掘残土から基準値超える放射能が検出され、動燃が立入禁止に。
17(水)●パキスタン空軍機爆発。ハク大統領ら死亡。
18(木)●韓国の五輪三〇日前祝祭で、日本の「少女隊」が韓国で禁止の日本語の歌を歌い生中継。
19(金)●堺市の公衆トイレで少女六人のリンチで殺された少女の死体が発見される。
20(土)●イラン・イラク戦争、八年ぶりに停戦。
21(日)●山川烈熊本大助教授、世界初のファジー理論によるマイクロプロセッサーを開発と発表。
22(月)●山陽相銀、新行名を「トマト銀行」と発表。
●埼玉県入間市で幼女行方不明(翌年にかけ幼女四人が殺害され、平成元年容疑者逮捕)。
23(火)●米でスーパー三〇一条含む包括通商法が成立。
24(水)●瓦防衛庁長官、「なだしお」衝突事故で辞任。
25(木)●山形駅前でミニ(山形)新幹線の起工式挙行。
26(金)●高校・大学男子の四二%が毎朝洗髪と資生堂。
27(土)●日中投資保護協定調印。対中投資促進はかる。
28(日)●防衛庁と三菱電機が高精度の赤外線誘導爆弾を開発、と新聞に。
29(月)●相互銀行の普通銀行への転換申請受付開始。
30(火)●公取委、三六商社の輸入牛肉談合に審査開始。
31(水)●イランでNHK「おしん」が大人気と新聞に。

▲米国でミサイル廃棄始まる(9月8日)INF全廃条約に基づく作業が、ソ連査察団の見守る中で行われた。写真は、パーシングIIの固形燃料ロケット焼却。

読売新聞社

▼バングラデシュで空前の水害(9月)記録的な豪雨のため、下旬にかけてガンジス川などが氾濫。国土の70パーセントが水浸し。死者は1000人を超え、4000万人が被災した。写真は首都・ダッカ市内。

朝日新聞社

フォート・キシモト

▲「バサロ泳法」で鈴木大地が金(9月24日)ソウル五輪の男子100メートル背泳ぎ決勝でバーコフ(米)を追撃、55秒05の日本新記録で優勝。日本の水泳の金は16年ぶりだった。

◀ベン・ジョンソン、金剥奪(9月27日)ソウル五輪100メートル9秒79の驚異的世界記録は、筋肉増強剤によるものだった。写真は発表するメロードIOC医事委員長(中央)。

共同通信社

▶日本最大の客船「ふじ丸」進水(9月10日)2万3500トン、客室163室、船内にプール、劇場などがあり、ゆったり船旅を楽しむクルージングブームの先駆けとなった。

朝日新聞社

▼沖ノ鳥島、領土保全の護岸工事(9月)小笠原諸島南西端の珊瑚礁だが、水没すると約40万平方キロの経済水域を失うため、5月から2重の鉄製の消波ブロックでまわりを囲み、コンクリートで固める作業を進め、ほぼ完成した。

朝日新聞社

昭和63年9月

1(木)●NTT、電報を平がな表記に変更。

2(金)●文部省、六四校を週休二日制実験校に指定。

3(土)●東証・大証、株価指数先物取引を開始。
●東京・ソウル友好都市協定、調印。

4(日)●口臭を気にする「口腔心身症」が増加と新聞に。

5(月)●社民連の楢崎弥之助、リクルートの同議員への贈賄工作を暴露。

6(火)●愛知県立明和高校の生徒ら、管理教育に反対し私服で登校、制服廃止訴えるビラをまく。

7(水)●大地震の際には東京湾埋め立て地の三八%に液状化の危険と、東京都調査。

8(木)●門田博光、三五本塁打の四〇歳世界記録達成。

9(金)●長寿番付。一〇〇歳以上が前年比一八%増。

10(土)●日本最大の客船「ふじ丸」、神戸で進水。

11(日)●船員保険、海運不況で初めて全部門赤字に。

12(月)●都営霊園の公募抽選会。競争率は一九倍。

13(火)●パソコン通信網「PC-VAN」に日本初のコンピュータ・ウイルスが侵入と判明。

14(水)●東京都、コインシャワーを保健所届け出制に。

15(木)●組合健保の経常収支が初めて一六億円の赤字。

16(金)●大阪で台湾製低価格パソコンの商談会開催。

17(土)●ソウル五輪開幕(〜10月2日)。

18(日)●外国人入国者は初めて韓国一位と法務省統計。

19(月)●天皇重体。吹上御所で大量の吐血・下血。

20(火)●衆院、米の自由化反対を全会一致で決議。

21(水)●ダイエー、プロ野球南海ホークスを買収。
●会津若松市、会津祭り一部中止を決定(以後祭りやイベントの「自粛」相次ぐ)。

22(木)●閣議、天皇の国事行為を皇太子に全面委任。

23(金)●さんま豊漁で組合が全船に四八時間休漁指示。

24(土)●鈴木大地、五輪水泳一〇〇㍍背泳ぎで、日本水泳陣一六年ぶりの金メダル。

25(日)●和歌山県串本町で竜巻発生。三二〇世帯被害。

26(月)●毎日新聞社の英字紙、天皇死去時の予定稿を間違って掲載(主筆と英文毎日局長を解任)。

27(火)●共産党議員、五輪視察団に加わり初の訪韓。
●IOC、ベン・ジョンソンの五輪陸上一〇〇㍍金メダルを薬物使用により剥奪と発表。

28(水)●体罰での教師処分は前年度三一一人と文部省。

29(木)●巨人の王監督、退団を表明(藤田元監督復帰)。
●東京都議会、天皇の戦争責任に触れた共産党議員の問責決議案を可決。

30(金)●リゾートマンション集中の新潟県・越後湯沢の地価が新潟市の高級住宅街上回ると判明。

◀さよなら南海ホークス(10月15日)ダイエーに買収されたため、この日の対近鉄戦が大阪球場最後の試合となった。昭和13年創立、30年代には日本一に2度輝く黄金時代があった。写真は試合後、杉浦監督以下ファンに別れを告げる選手たち。

日刊スポーツ

▼斎藤仁、お家芸面目の金(10月1日)前日まで決勝進出者ゼロという重圧の中、ソウル五輪柔道95キロ超級で東独のストールを破り、ロス五輪に続き2連覇。結局、これが日本柔道唯一の金となった。

共同通信社

▶日本初のビル爆破解体(10月12日)欧米でさかんな発破工法を実用化するため、通産省などが実験。長崎県の旧高島鉱業所社宅を利用し、150キロのダイナマイトを用いて、6階建てのビルを3秒で崩壊させた。従来の鋼球による打撃法では2ヵ月を要するという。

読売新聞社

報知新聞社

▲五木ひろし(40)、和由布子(29)結婚(10月5日)東京・品川の新高輪プリンスホテルでの祝典を、天皇の病状急変のため延期、入籍だけすませた。二人は翌年6月あらためて挙式、その2ヵ月前に長男が誕生していた。

共同通信社

▶国債ネズミ講「国利民福の会」幹部3人を逮捕(10月21日)前年1月発足以来、会員間で動いた金は約37億円。しかし、入会者の3分の2が無配当。写真は詐欺容疑で大阪府警に連行される、平松重雄会長。

◀オリエント急行、東京着(10月18日)ヨーロッパの豪華列車が、1万5000キロを走破して日本にやって来た。JRは12月まで「究極の日本1周ツアー」を実施、88万円にもかかわらず13倍もの応募があった。

共同通信社

昭和63年10月

1(土)●長崎県の世界初の洋上石油基地で備蓄開始。

2(日)●日中共同探検隊、シルクロードの楼蘭に到達。

3(月)●JR東日本、在来線初の二階建てグリーン車導入など通勤電車改善計画を発表。

4(火)●ベトナムの二重体児ベトちゃん・ドクちゃんの分離手術がホーチミン市で行われ、成功。
●静岡市、反天皇制集会への施設利用を拒否。

5(水)●アムネスティ、日本政府に死刑廃止を要請。

6(木)●宗教法人の九四%で申告もれと国税庁調査。

7(金)●日本のロボット数は米の二・七倍とOECD。

8(土)●芦屋市に「市立谷崎潤一郎記念館」開館。

9(日)●一五歳の沢松奈生子、全日本テニスで優勝。

10(月)●転勤者の三人に一人は単身赴任と労務行政研。

11(火)●共産党、リクルート事件で株の譲渡受けた宮沢蔵相含む九人を公表、証人喚問要求へ。

12(水)●社会党代表団、統一民主党の招待で初訪韓。

13(木)●コニカ株買い占め失敗の日本土地に破産宣告。

14(金)●東大PRC企画委員会、脳死腎移植を行った新潟市信楽園病院の医師らを殺人罪で告発。

15(土)●長野県南木曾町、過疎対策で三年以上の居住者に一〇万円支給との条例を公布施行。

16(日)●総会屋に金銭贈与のパルコ元専務ら逮捕。

17(月)●「モノ」を扱う雑誌が創刊ラッシュ、と新聞に。

18(火)●北海道で行われた「世界・食の祭典」の発表入場者数一七五万人が、実際は半分と判明。

19(水)●東京地検、リクルート本社などを一斉捜索。
●オリエント・リース、阪急ブレーブスを買収(オリックスブレーブス)。

20(木)●映画館に八年ぶり値上げの動き、人気館は一七〇〇円時代へ、と新聞に。

21(金)●最高裁、衆院定数格差二・九二倍に合憲判決。

22(土)●短大八校が高学歴志向で四年制移行と新聞に。

23(日)●米軍の流弾事故が続発する沖縄県金武町で、基地全面撤去を求める住民集会開催。

24(月)●千葉県土地収用委で、成田空港がらみの脅迫相次ぎ、全委員がこの日までに辞表提出。

25(火)●大分県に「大分一村一品株式会社」設立。

26(水)●学校の保健室に避難する子が激増と新聞に。

27(木)●「週刊平凡パンチ」終刊。

28(金)●NHK、来春ハイビジョン放送開始と発表。

29(土)●ソウル五輪レスリング金メダリストの小林孝至、上野駅でメダル紛失(31日手元に戻る)。

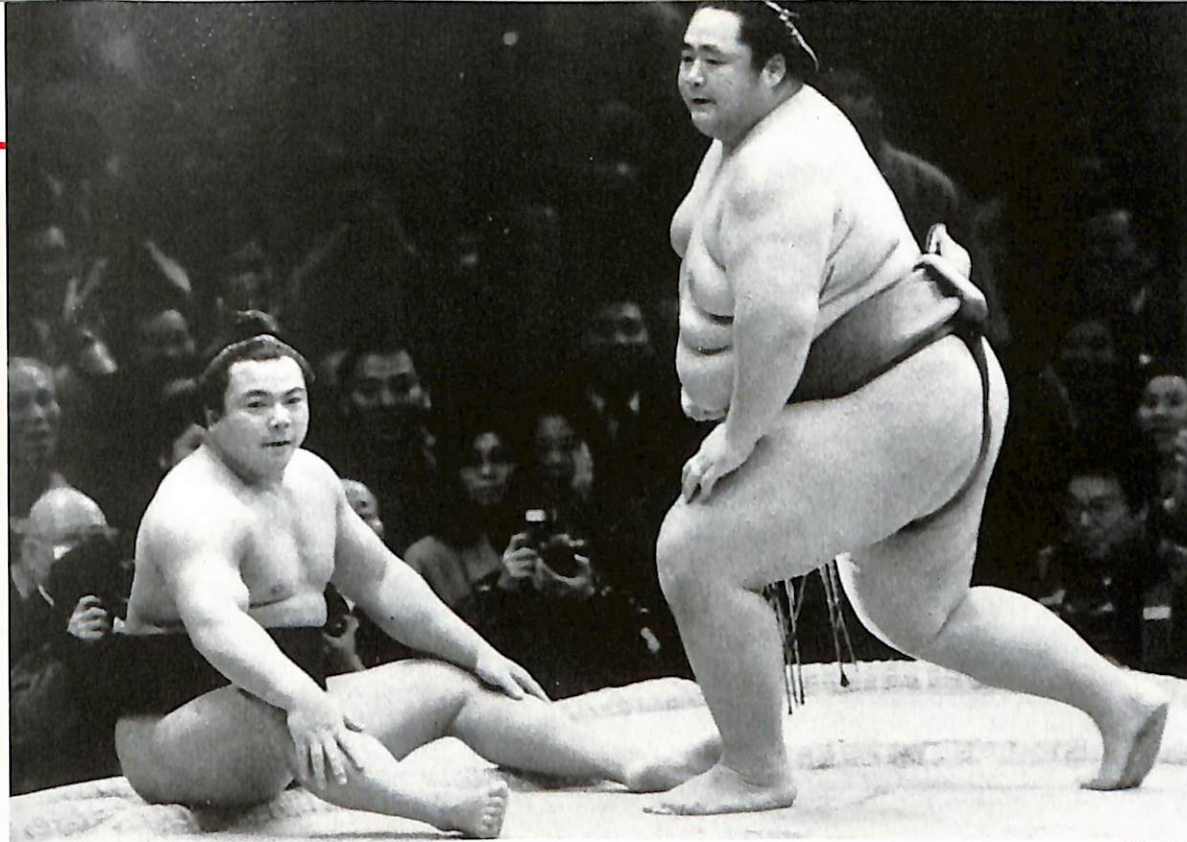
30(日)●女性役職者が一〇年で倍増と「婦人労働白書」。

31(月)●日本など一五ヵ国で熱帯林伐採反対統一行動。

朝日新聞社

▲米大統領にブッシュ(11月8日)民主党候補・デュカキス(55)を破り、当選した。ブッシュ(64)は共和党現職副大統領。米国民は、経済を回復し、国防力を強化したレーガンを継承する政権を選択した。

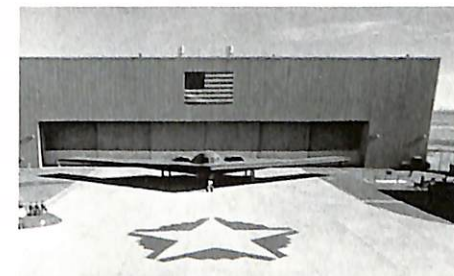
朝日新聞社

◀千代の富士、53連勝でストップ(11月27日)大鵬の45連勝を破って勝ち続けていたが、九州場所千秋楽結びの一番、横綱大乃国に寄り倒された。これで、双葉山の69連勝への挑戦に終止符が打たれた。

▼「ボージョレ・ヌーボー」ラッシュ(11月17日)フランスワインの新酒が、14日頃から成田に続々到着、この日解禁。本場で1本400円が日本で8倍、それでも輸入量は前年の1.7倍だった。

共同通信社

▶「見えない爆撃機」ステルスB－2公開(11月22日)カリフォルニア州パームデール空軍工場に、V字形の異様な姿を現した。全幅52.5メートル。機体にレーダー波を吸収する特殊素材を被覆。1993年、初配備された。

AP／WWP

共同通信社

◀マンスフィールド駐日米大使、勇退(11月14日)記者会見で、ブッシュ新政権発足を機に引退を表明。昭和52年6月に着任以来、日米摩擦解消につとめてきた。任期約11年半は、戦前戦後を通じ最長。85歳。

▶武豊、年間100勝達成(11月26日)第5回京都競馬でシャダイカグラに騎乗、史上10人目、デビュー2年目では初の偉業を達成した。武(19)は「名人騎手」と言われた武邦彦の三男、前年には69勝をあげ、新人最多勝記録を更新している。

日刊スポーツ

昭和63年 11月

1(火)●東京地検、楢崎弥之助へのリクルート贈賄工作隠し撮りビデオを日本テレビから押収。

2(水)●指紋押捺拒否の仏人神父に初の在留特別許可。

3(木)●第一回女子ラグビー交流大会、開催。

4(金)●コードレス型アイロンが人気集めると新聞に。

5(土)●警視庁、中国人留学生の身元保証書を偽造した日本語学校理事長を逮捕。

6(日)●天皇、過去最大の下血で一六〇〇ccを輸血。

7(月)●冷害で史上三位三六五四億円の被害と農水省。

8(火)●米大統領選。共和党のブッシュ当選。

9(水)●来日中の東独ドレスデン十字架合唱団の少年ら四人、西独大使館を通じて西独に亡命。

10(木)●衆院特別委で消費税導入の税制改革六法案を自民強行可決(12月24日、参院通過し成立)。

11(金)●上海の日本総領事館、ビザ申請の中国人殺到し業務に支障と公安当局に警備強化を要請。

12(土)●環境庁、ダイオキシン汚染一二海域公表拒否。

13(日)●神田道夫、中量級熱気球の高度世界記録達成。

14(月)●青梅信金の女性職員、オンライン操作し九億七〇〇〇万円を愛人に送金した容疑で逮捕。

15(火)●パレスチナ民族評議会、独立国家樹立を宣言。

16(水)●「五時からスポーツ」派ふえ、二四時間営業のスポーツ施設が相次いで誕生、と新聞に。

17(木)●千葉地裁、川鉄公害訴訟で責任認め賠償命令。

18(金)●文化財保護審、JR門司港駅を重文にと答申。駅舎では初めて。

19(土)●汚職関係自治体は二割ふえ一〇八と自治省。

20(日)●公立高の九四%がコンピュータ設置と文部省。

21(月)●衆院リクルート特別委、江副前リクルート会長・高石前文部次官・加藤元労働次官を喚問。

22(火)●過労死の遺族一五人、一斉に労災集団申請。

23(水)●全斗煥韓国前大統領、光州事件と一族の不正を謝罪し全財産を国庫返納、隠遁生活へ。

24(木)●クレジットカード発行枚数が五年で倍増、一人一枚の時代に、と新聞に。

25(金)●森滝市郎、四〇〇回目の核実験抗議座りこみ。

26(土)●都内の灯油配達料こみ価格は一缶七七五円、一〇年ぶりに八〇〇円割る、と新聞に。

27(日)●東京で天皇制の賛美・強化に反対する集会。

28(月)●三越、ピカソ「軽業師と若い道化師」を四七億円で落札。

29(火)●竹下首相、「ふるさと創生」のため全国三二四五市町村に一律一億円を交付と決定。

30(水)●プロ野球、合同自主トレを廃止、と新聞に。

共同通信社

◀ソ連のアルメニア共和国で大地震(12月7日)マグニチュード7.0。スピタク、レニナカンなどの街では建物のほとんどが倒壊、2万3000人余が死亡した。訪米中のゴルバチョフ大統領は急ぎ帰国、被災地に飛んだ。

AFP／PANA通信社

▲印・パ首脳、歴史的会談(12月29日)両国は宗教的対立を背景に、独立後3度も戦火を交えてきた。写真は、祖父・ネルー以来28年ぶりにパキスタンを訪れたガンジー首相(左)と、ブット首相。

共同通信社

◀北海道・十勝岳、26年ぶり大噴火(12月19日)避難命令が出たが、被害はなかった。十勝岳は標高2077メートル。大正15年の噴火では、144人が犠牲になった。

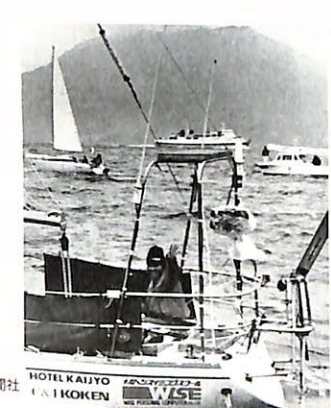
▼女性初、ヨットで太平洋単独往復(12月31日)204日間の海の一人旅を完遂したのは、今給黎教子さん(23)。「海連垂乳根(かいれんたらちね)号」(全長8.65メートル)で鹿児島新港に帰着した。

読売新聞社

共同通信社

▲3億250万円奪わる(12月30日)神戸市の太陽神戸銀行須磨支店前で、積み降ろしをしていた現金輸送車に男が近づき、乗り逃げ。車には現金のほか手形などが積まれていた。写真は近くの駐車場で見つかった空のケース。

共同通信社

▲株価、3万円の大台に(12月7日)東京証券取引所の平均株価が、わずか1年10ヵ月で大台替わりの急伸。「金余り」が背景にあり、証券業界の鼻息は荒かった。写真は3万50円82銭を示す掲示板。

昭和63年 12月

1(木)●日航機墜落事故(昭和60年)で日航関係者ら二〇人を手抜き検査・修理の疑いで書類送検。

2(金)●パキスタン首相にベナジル・ブット就任。イスラム世界初の女性首相誕生。

3(土)●枚方市で警官が逮捕少年に暴行、死亡させる。

4(日)●出水市の越冬ツルが過去最高の九〇六五羽。

5(月)●東京二三区で電話番号案内に合成音声登場。

6(火)●大阪・難波駅で音声認識の券売機試験を開始。

7(水)●本島等長崎市長、天皇の戦争責任を明言。

●ソ連アルメニアで大地震。二万人以上が死亡。

8(木)●社会党、「土井たか子ホットライン」を開設。

9(金)●宮沢蔵相、リクルート疑惑で辞任。

10(土)●株買い占め集団「光進」、国際航業株の過半数を取得し経営権を掌握、社長を解任。

11(日)●三億円事件(昭和43年)、民事時効が成立。

12(月)●銀行一五五行のうち四〇行のトップが大蔵省と日銀の天下りと判明。

13(火)●アンゴラ和平文書調印。ナミビア独立が決定。

●米ゲーム機会社が任天堂を独禁法違反で提訴。

14(水)●運輸省、車の助手席窓へのフィルム貼付禁止。

15(木)●観光・商用での米への短期入国がビザ不要に。

16(金)●福岡地裁、福岡空港騒音訴訟で損害賠償命令。

17(土)●在日米軍、フィリピンのクラーク基地の戦闘機中隊が沖縄・嘉手納基地へ移駐開始と発表。

18(日)●富山市の高校で、女子生徒一〇〇人の前髪を強制的に切っていたことが判明。

19(月)●漫画誌「少年ジャンプ」、五〇〇万部発行。

20(火)●年間交通事故死者が一三年ぶり一万人突破。

●カロリー換算食糧自給率が五割切ると農水省。

21(水)●公取委、通販の「痩身下着」は不当広告と警告。

22(木)●ビデオレンタル店平均会員数が前年比五割増。

23(金)●エイズ予防法、成立。

24(土)●沖縄のディスコで、持ちこまれた米軍の催涙ガス兵器からガス噴出。一三人入院。

25(日)●有馬記念でオグリキャップが優勝。

26(月)●福山市で映画「座頭市」撮影中、真剣が俳優の首に刺さり重傷(1月11日死亡)。

27(火)●新日鉄釜石、第一高炉を翌三月に休止と発表。

28(水)●大阪市で不発弾撤去作業。一万人が避難。

29(木)●建設省が入札前に工事落札予定業者リストを作成と判明。

30(金)●神戸市で現金輸送車乗り逃げ、三億円余強奪。

31(土)●鹿児島市の今給黎教子、女性では世界初のヨットによる太平洋単独往復に成功し帰国。

流行語

自閉的な若者群の出現

「おたく族」。学校の友人に対しても「おたく」と、距離をおいて呼びかけるような若者のこと。ビデオやパソコンなど、一人でできるものだけを相手にし、直接的な人間関係を作ることができない、若者の自閉的な傾向を表す言葉として広まった。

「テクノ・ストレス」。アメリカの心理学者、C・ブロードの造語で、コンピュータ社会特有の病理現象のこと。コンピュータ社会に適応できず自律神経失調症などを引き起こす「テクノ不安症」、コンピュータ的思考にとらわれ対人関係がうまくいかなくなる「テクノ依存症」の二つのタイプがある。

「今宵はここまでに……」。NHKの大河ドラマ「武田信玄」で、ナレーターの若尾文子が最後に言う台詞。控え目でレトロな感じが、中年男性に受けた。

「オバタリアン」。堀田かつひこのマンガから出たもので、無神経で羞恥心がない中年女性のこと。ただし後にはエネルギッシュな女性に対する敬称としても使われた。

◀東京・銀座の歌舞伎座は、この年創立百年を迎え、記念興行が行われた。写真は「朝日新聞」掲載の広告。

住

徒歩三〇分、二キロが理想 味噌汁のさめない距離

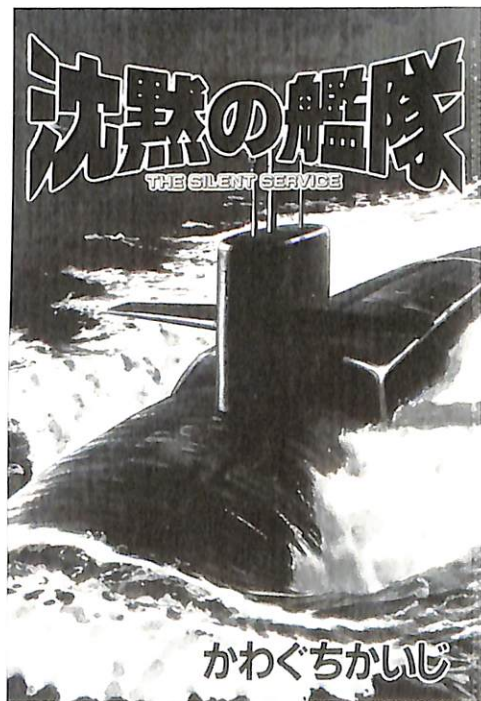
（夫や妻の）家族とは「味噌汁のさめない距離」でつき合うのが一番いいと言われている。では、その距離はどれくらいか？　東京都老人総合研究所が実験を行った。まず一〇人の主婦に味噌汁を飲んでもらったところ、一番おいしいと感じるのは六五度であることが判明。出来たての味噌汁が六五度に下がるまでに三〇分かかることもわかった。次に主婦たちに歩いてもらったところ、一分間に平均七一・八メートル、三〇分では二一〇〇メートル歩くことになる。その結果「味噌汁のさめない距離」は約二キロということになった。

（家庭総合研究会編『昭和・平成家庭史年表』）

猫ブームの犠牲 日本猫絶滅！

猫ブームは過熱化する一方だが、そのために日本原産の猫が絶滅の危機に瀕している。猫は日本猫と洋猫の混血がかわいいので、ブームとともにドッと洋猫が輸入され、交配が重ねられた。犬と違って、血統を守ろうという人もいなかったという。

その結果、金目、銀目しかなかった日本猫にブルー、オレンジ、銅色の目などができ、逆に日本猫独自の赤茶で無地や、絵の具を落としたような鮮やかな三毛猫が姿を消してしまった。最近になって、専門家の間で血統を守ろうという動きが出てきたが、もう手遅れではないかとも言われている。

（「朝日新聞」二月二六日）

▲かわぐちかいじ作「沈黙の艦隊」が「コミックモーニング」44号から連載が始まり、人気を集めた。

データ

一位みかん、二位いちご 東京人の好きな果物

東京の人はどんな果物が好きか？　中央卸売市場の入荷額からこんな結果が出た（一億円未満四捨五入）。

①みかん＝三七四億円、②いちご＝三二二億円、③メロン＝二九五億円、④りんご＝一八七億円、⑤ぶどう＝一一七億円

以下バナナ、すいか、梨、伊予柑、桃がベストテンだった。

（東京都編『東京都中央卸売市場年報・昭和六三年版』）

CM100年 テレビCF「スコーン！　スコーン！　おいしいスコーン！──スコーン！」（湖池屋）

▲ダンス教師の手拍子とステップ指導に乗り歌われた台詞が、印象的だったテレビコマーシャル。

はやり歌

日本コロムビア提供

人生いろいろ

作詞　中山大三郎
作曲　浜口庫之助

死んでしまおうなんて
悩んだりしたわ
バラもコスモスたちも
枯れておしまいと
髪をみじかくしたり
つよく小指をかんだり
自分ばかりを責めて
泣いてすごしたわ
ねぇおかしいでしょ　若いころ
ねぇ滑稽でしょ　若いころ
笑いばなしに　涙がいっぱい
涙の中に　若さがいっぱい
※人生いろいろ　男もいろいろ
女だっていろいろ　咲き乱れるの
恋は突然くるわ
別れもそうね
そしてこころを乱し
神に祈るのよ
どんな大事な恋も
軽い遊びでも
一度なくしてわかる
胸のときめきよ
いまかがやくのよ　私たち
いまとびたつのよ　私たち
笑いばなしに　希望がいっぱい
希望の中に　若さがいっぱい
（※くりかえし）
（※二回くりかえし）

▲TBS「三どしま」の主題歌。島倉千代子が歌い、日本レコード大賞最優秀歌唱賞を受賞。

乾杯

作詞　長渕　剛
作曲　長渕　剛

かたい絆に　想いをよせて
語り尽くせぬ　青春の日々
時には傷つき　時には喜び
肩をたたきあった　あの日
あれからどれくらい　たったのだろう
沈む夕日を　いくつ数えたろう
故郷の友は　今でも君の
心の中に　いますか
※乾杯！　今君は人生の
大きな　大きな舞台に立ち
遥か長い道のりを　歩き始めた
君に幸せあれ！
（※二回くりかえし）
君に幸せあれ！

東芝EMI提供

▲歌も長渕剛自身。すでにアルバムに収録されていたが、シングルとして発売し、大ヒット。

JASRAC（出）許諾第9800489-801号

▲マガジンハウスの「平凡パンチ」が、11月10日号で廃刊に。

三面記事

お坊さん募集も求人誌で

〔仙台発〕宮城県仙台市郊外の成田山国分寺が昭和六三年も求人情報誌でお坊さん二人を募集した。採用職種はちゃんと〝僧侶〟とあり、学部・学科は問わない。仏教系に限らず一般の大学も可。

同寺は千葉県の成田山新勝寺の分院だが、お坊さんの仕事も、今や信徒情報のコンピュータ管理、マーケティング理論を応用した祈願者の開拓、旅行会社と組んでの団体参拝募集など、ナウいことばかり。そこで三年前から求人情報誌で募集を始めたもので、勤務時間は九時から五時で、初任給は一四万円と一般企業並み。応募はいつも上々だという。

（「新潟日報」七月五日）

社会

死亡広告の新しい波 第一号は鳶の親方

一二月一一日付の各新聞に、ユニークな死亡広告が掲載された。亡くなったのは鳶の親方で、元日本鳶工業連合会長の永井睦郎さん。広告は「生涯を男伊達で貫いた男が、木枯しとともにこの世を去った」という書き出しから始まり、永井さんの業績の紹介、さらに次のように続く。

「大野伴睦先生の〝義理と人情とやせ我慢〟を鳶職人生の信条として、権威や身分に屈することなく豪快、自由奔放に生きた。こよなくはんてんを愛し、職人気質を誇りとした彼は、役割をはたした今、木遣に見送られ浄土の世界へ旅立っていく。

極楽へ吹き行く風の物言わば
日に幾度か便り聞かせん」

この広告を出したのは通産大臣で、故人と親交のあった田村元氏と友人の坪内敏雄氏。二人はかねがね、関係のあった団体のおエラ方が名前を並べただけの死亡広告が不満で、こんな形にしたという。

ちなみに、永井さんは小学校卒業後、鳶の徒弟に。一時はサーカス一座にもいたが、戦後は鳶の世界をひとつにまとめてきた。昭和五二年、勲四等瑞宝章受章。胸から腹にかけて生首、背中には〝ご意見無用〟の入れ墨をしていたという。

（「週刊新潮」一二月二二日号）

◀一二月、缶入りのインスタントコーヒー「カフェ・イン・ボトル」が発売された。価格は九〇〇円。

ホーネンコーポレーション提供

セックス

サッカーは性欲を刺激する？ オーストラリアで新学説

〔シドニー発〕クイーンズランド大学のロス・フィッツジェラルド博士が「サッカーは人間の性欲を刺激する」という新説を発表した。

博士によると、試合後の興奮の中で結婚の申し込みをした人は、統計的にはっきりと目立つくらい多いし、危機に瀕したカップルにサッカー観戦を勧めたところ、性的に興奮し、離婚を回避できたケースも多い。同博士はラグビーや陸上競技など、ほかのスポーツについても調べたが、性欲刺激現象が見られたのはサッカーに限られていた。手を使わないというサッカーの特徴が、潜在的な攻撃本能や性欲を刺激するらしいと、同博士は分析している。

（「週刊宝石」九月九日号）

この年の初もの

禁煙マンションが長崎県佐世保市に

●**旅の道連れ紹介業**　東京・杉並に「トラベルメイツ」開業。入会金一万円、会費（六ヵ月）一万二〇〇〇円。

●**宅配焼き芋**　福岡市に登場。大二本入り五〇〇円。英字新聞に包んだところが女性に受けて、一日の売り上げ四万～五万円。

●**学生保険**　東京・八王子市と市内にある二〇の大学が共同で創設。風邪やバイクの事故もOK。

●**懸賞応募代行業**　テレビ、ラジオ、雑誌の懸賞情報を提供、応募を代行するもので大阪に登場。

▶戦後、六六万人の引揚げ者が上陸した舞鶴市に、四月、戦争の悲劇を語り継ぐ「舞鶴引揚記念館」が開館した。

京都新聞社

世界の動き

ソ連軍一一万五〇〇〇、アフガンから撤退開始！

麻薬の蔓延、帰還兵の社会復帰……八年半の侵攻は"第二のベトナム戦争"だった

▲1979年12月から約8年半にわたってアフガニスタンに侵攻していたソ連軍が、この年5月15日から撤退を開始した。 ユニフォト・プレス

一九八八年五月、前月に締結された「アフガニスタン和平協定」に基づき、アフガニスタンからのソ連軍一一万五〇〇〇人の撤退が始まった。一九七九年暮れの突然の侵攻に始まったソ連軍の駐留は、約八年半ぶりに終わろうとしていたが、この侵攻は、ソ連社会を内側からむしばみ、ついには国家の崩壊を引き起こす。

笑みもこぼれる撤退ソ連軍兵士

真っ青なアフガニスタンの空の下、砂煙を上げて約三〇〇台の戦車と装甲車の長い列がゆっくりと進んできた。車体のへこみが、激しい戦闘の跡をものがたる。戦車の砲身には、ソ連とアフガニスタンの国旗がはためく。一九八八年五月一五日、パキスタン国境近くのジャララバードを出発し、首都・カブールに向かうソ連軍第一自動車化狙撃連隊の一隊である。沿道では市民が手を振って出迎え、ソ連兵も、時折、笑顔でこたえる。「アフガニスタン・ソ連の友好を永遠に」という横断幕が掲げられたカブールでは、アフガニスタン軍楽隊の演奏するロシア民謡「カチューシャ」が一行を迎えた。

しかし、一六日の撤退記念式典の後、故郷に帰る彼らは、けっして凱旋ではない。八年半にわたる戦いは、事実上の「敗戦」。この日から撤退を開始する一一万五〇〇〇人のソ連軍の第一陣なのだ。兵士の笑顔は、むしろ「ようやく帰れる」という、安堵の表情だったのである。

ソ連軍がアフガニスタンに侵攻したのは、一九七九年一二月二五日のことだった。空挺部隊が各地に降下し、二九日には二万～二万五〇〇〇人の地上軍がなだれこんだ。ソ連共産党機関紙「プラウダ」は、アフガニスタン政府の要請にこたえ、「国際主義的義務」に従って「限定された兵力」を派遣したと、侵攻理由を説明した。当時、アフガニスタンでは、一九七八年四月のクーデターで成立した人民民主党（共産党）政府と、その急速な社会主義化に反発するイスラム教徒ゲリラの間で、内戦が起こっていた。当初から政府軍の支援を行っていたソ連が、突如として直接軍事介入に踏み切った裏には、「ソ連指導部のあせりがあった」と、千葉商科大学の高橋正教授（国際関係論）は語る。

「一九七九年九月のクーデターで、親ソ派のタラキに代わって、米国留学組のアミンが大統領に就任します。背後には当然、CIAの存在があった。社会主義の既得権を守るために、ソ連は早急にアミンを排除する必要があったのです」

そのため政治局での議論さえ行われず、ブレジネフ書記長、ウスチノフ国防相、アンドロポフKGB議長、グロムイコ外相のわずか四人で侵攻が決定された。

だが、ソ連軍を待っていたのは、「ジハード（聖戦）」という固い信念を持ち、狭隘な地形をたくみに利用したゲリラ戦を展開する約一五万人のイスラム教徒ゲリラ「ムジャヒディン（イスラム戦士）」だった。圧倒的な航空戦力と最新型の装甲車両をそろえたソ連軍だったが、小火器や迫撃砲、地雷などで武装したゲリラの前に予想外の苦戦を強いられる。七次にわたるパンジシール峡谷掃討作戦では、毎回約二万人の兵力を投入しながら、二、三千人のゲリラを制圧できない始末。アメリカやイスラム教諸国からの援助でゲリラ側の武装も向上し、アメリカが供与した携帯式対空ミサイル「スティンガー」が戦線に登場すると、優勢な制空権もおびやかされた。戦果が上がらないまま、ソ連軍は次第に泥沼の戦いに踏みこんでいく。「限定された兵力」は毎年約一、二万人ずつ増強され最盛期には一二万人を数えたが、都市部と幹線道路を確保するのが限界だった。

一九八五年、ゴルバチョフ書記長の就任後、ようやく解決の糸口が見え始めた。翌八六年から米ソが直接交渉のテーブルにつき、一九八八年四月一四日、アフガニスタン、パキスタン、アメリカ、ソ連の四国間で「アフガン和平協定」が締結されたのである。

松本逸也／朝日新聞社

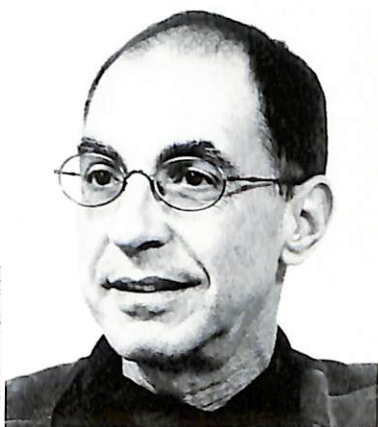
▲アフガン紛争で、隣国のパキスタンやイランへ難民が流れこんだ。写真はパキスタン・アザヘル難民キャンプで。

▶アフガニスタンで、ソ連軍は約一五万人のイスラム教徒ゲリラに予想外の苦戦を強いられた。写真は徹底抗戦のゲリラ軍。

AP WWP

外から見たNIPPON

イスラエル人研究者、ヤコブ・ラズの「ヤクザの文化人類学」

——佐伯 修

「ショバ割りは祭りが始まる二、三日前に、寺社の境内にテキヤが集まっておこなわれる。それは儀式としても、また仕事の上からも重要な集まりである。それは祭りのおこなわれている場所で露店を開く位置の割り当てを、目的としている。（中略）露店を開く位置はきわめて重要だ。いい場所なら実入りも莫大なものとなるだろう。テキヤのことばでは、『場所は命』である。日本人は普通、道路の左側を歩くので、寺社にむかって、参道の右側にある露店のほうが、左側の露店よりもずっとよい。参拝者が自分の子どもたちのためにお金を使うのは、奉納やお祈りをすませ、もう並んで待つ必要もなく、くつろいで、歩いて帰るときだからである。（中略）ショバ割りの儀式が終わると、警察の代表がときどきテキヤを集め、友好的ではあるが毅然とした口調で、振る舞いや店を開く規則などに関する条件をいくつか告げる。これが終わると、呼び売り人たちは露店を組み立て、商品を並べ始める」（富山太佳夫訳）

イスラエルの文化人類学者、ヤコブ・ラズ（一九四四～）は、この年、ユニークなフィールドワークに基づく「香具師とわたし——ヤクザの文化人類学」を発表した。

本来、演劇や大衆芸能の研究者である彼は、一般に「定住型」と見られがちな日本社会で、大きな役割を担いながら、これまで、学問的に等閑視され、往々にして社会的にも差別されてきた、宗教、芸能、行商、そして犯罪などにたずさわってきた「放浪集団」に着目した。彼は、まず、盲目の女性芸能者「瞽女」を調査対象とし、次いで、「テキヤ」の世界に根気よくアプローチしていった。「テキヤ」（神農道）とは、本来博奕打ちである「博徒」（任侠道）とともに、いわゆる「ヤクザ」を構成する露店商の集団であり「香具師」とも言う。

▲禅寺で修行、早大で博士号を取った。

岩波書店「世界」編集部提供

こうしたラズの問題意識は、ヨーロッパ社会における「放浪集団」としてのユダヤ人という、彼自身の出自にも根ざしている。そして、彼は、「清水の次郎長の後裔」「荒々しいギャング、アウトロー」「寅さん」などの分裂したイメージを押しつけられた「テキヤ」たちが、実は「ノーマルな」「堅気」の社会からの眼差しに、強い脅威を感じており、それに対する無意識の防禦が、刺青を含む外見の誇示や、威嚇的なポーズを生んでいる点などを指摘する。

なお、ラズのこの研究は、後に『ヤクザの文化人類学——ウラから見た日本』（平成八年）として詳しくまとめられている。

アフガニスタン侵攻が〝ソ連崩壊〟の引き金に

一九八九年二月一五日、最後のソ連軍部隊が引揚げ、撤退が完了した。この日、ソ連軍司令官のグロモフ中将は、「犠牲や損失にもかかわらず、我々は国際主義者としての義務を完全に遂行した」と語った。しかし、その「犠牲や損失」は大きな負債となってソ連の国家体制にのしかかっていた。総計四五〇億ルーブル（当時のレートで九兆三二四九億円）という莫大な戦費と、総計一万三八三三人（ソ連側発表）の戦死者。その三倍と言われる傷病兵に加え、約五〇万人の「アフガンツィ」（アフガン帰還兵）も大きな社会問題だった。高い失業率の中で社会復帰の機会を失った彼らの中には、社会への幻滅や挫折感から、酒や麻薬におぼれるものも多かった。

「国へ帰ったら、誇らかに背すじを伸ばして歩けると思って、あそこへ行った」と言う帰還兵の一人は、「俺の友人たちは犬死にってわけだ。（中略）俺たちがあそこで人を殺しているとき、あんたがたは黙っていた。それが今になって皆一度にしゃべり出した。『犠牲だ』『誤りだ』（中略）地中に眠っているのは英雄なんだ」（『アフガン帰還兵の証言』日本経済新聞社）と真情を吐露している。

特に麻薬禍は深刻だった。対ゲリラ戦の恐怖から多くのソ連兵が麻薬を常習し、軍の輸送ルートを使った麻薬密輸入などの犯罪行為も横行していた。その結果、ソ連国内にも麻薬が急速に蔓延し、一九九〇年には約二四〇万人と言われる麻薬常習者が生まれることになったのだ。まさにベトナム戦争後のアメリカと同様の後遺症に、ソ連も苦しめられたのである。

「アメリカはベトナム戦争から立ち直りましたが、アフガニスタン侵攻はソ連崩壊の引き金になってしまった。もともと脆弱だった経済、社会のひび割れがさらに広がり、硬直した政治経済体制にあったソ連には、その傷を修復する自己浄化機能もなかったのです」（高橋氏）

一九九一年、ついにソ連は崩壊した。しかし一方のアフガニスタンでは、ソ連撤退後もゲリラ各派の間での内戦が続き、一一年を経た今も、戦火は消えない。

共同通信社

▲1988年4月14日、アフガン合意4文書の調印式の後、ソ連代表部でシュルツ米国務長官（左）を迎えるシェワルナゼ・ソ連外相。

往きて還らぬ

▲11月9日　茅誠司（89）
物理学者、元東大学長。日本学術会議会長などをつとめ、昭和39年文化勲章受章。「小さな親切運動」の主唱者。

▲8月10日　清水幾太郎（81）
元学習院大教授。社会学者で読売新聞論説委員もつとめた。60年安保闘争では革新派リーダーとして論陣を張った。

▲4月10日　桑原武夫（83）
仏文学者、京大名誉教授。スタンダール、アランの研究で著名。若手学者も多数育成、昭和62年文化勲章受章。

▲1月9日　宇野重吉（73）
俳優。昭和22年民衆芸術劇場（後に民芸）創設。渋い演技で知られ、演出作品に「オットーと呼ばれる日本人」など。

▲11月12日　草野心平（85）
昭和期を代表する詩人の一人。蛙を題材にした作品で人気を集めた。昭和62年文化勲章受章。詩集『定本蛙』など。

◀4月16日　一七代目中村勘三郎（78）
歌舞伎俳優。戦後の歌舞伎界のリーダー的存在。舞踊や新作劇でも活躍した。昭和五五年文化勲章受章。

▶12月25日　大岡昇平（79）
小説家。戦争体験を書いた『俘虜記』『野火』で高い評価を獲得、『武蔵野夫人』がベストセラーに。評伝も手がけた。

▲7月14日　末廣恭雄（84）
元東大・日大教授。〝魚博士〟として有名で、現・天皇に魚学を教えたことも。『魚と伝説』など著書多数。

▲3月30日　田谷力三（89）
歌手。大衆オペラの第一人者。大正期浅草オペラで活躍。「ボッカチオ」の主題歌、「恋はやさしい野辺の花よ」が有名。

▲12月30日　イサム・ノグチ（84）
日系米人の彫刻家で、父は詩人・野口米次郎。石などを素材に抽象的な作品を制作。女優・山口淑子と結婚して話題に。

▲9月20日　中村汀女（88）
俳人。家庭生活を題材にした〝台所俳句〟で婦人層の共感を得た。昭和22年「風花」創刊、句集に『春暁』など。

▲8月4日　土光敏夫（91）
元石川島播磨重工業・東芝社長。昭和49年から55年まで経団連会長もつとめ、〝財界の荒法師〟と言われた。

▲4月9日　田宮虎彦（76）
小説家。人間愛にあふれた作品で人気を得、書簡集『愛のかたみ』がベストセラーに。ほかに『足摺岬』など。自殺。

ミニ事典
1988年のキーワード

大潟村闇米事件
減反を拒否して作付けし、自由米（闇米）として販売した秋田県大潟村の農民を、昭和六〇年一二月に県と農水省が食糧管理法違反で訴えた事件。一月一一日、秋田地検は被告三人を不起訴処分にした。食管制度の大幅見直しが論議される中での訴訟となったが、自由米流通を是認したこの判断は米市場自由化を促進、平成二年には自主流通米の比率が六五パーセントにまで達した。

セマウル疑惑
韓国のセマウル（新しい村）運動の中央本部長、全敬煥が起こした巨額の公金横領・脱税事件。実兄が全斗煥・前大統領だったため、大スキャンダルに発展。三月三一日、大検察庁は全を逮捕、九月に懲役七年の実刑判決を下した。前大統領も、四月にすべての公職を辞した。セマウル運動とは、工業化の進展と対照的に停滞する農村の近代化・活性化をはかるため、一九七〇年代に朴正熙大統領の指示で始められた村起こしの全国的運動。

ロイター・サン　共同通信社

▲11月23日、テレビを通じて国民に謝罪、江原道の山中で隠遁生活に入った全・前大統領と李順子夫人。

邑久長島大橋
ハンセン病国立療養所「長島愛生園」のある瀬戸内海の岡山県邑久町・長島と本土を結ぶ橋。昭和四六年に架橋建設が求められ、この年五月九日、やっと開通。昭和五年の開園以来、約三〇メートル先の本土から隔絶され、行き来をはばまれていた患者たちの悲願達成の象徴となった。

読売新聞社

▲渡り初めを行う患者たち。いわれのない差別を解消する、ひとつのステップとなった。

アグネス論争
タレント、歌手のアグネス・チャンが子どもを連れて芸能活動をすることに対して起こった、是非論争。作家・林真理子らが「プロ意識の欠如からくる甘え」と批判、社会学者・上野千鶴子らがアグネス擁護派の急先鋒となった。論争はテレビ、週刊誌などを舞台に発展、仕事と育児の両立から夫婦の役割の問題、女性差別社会の実態にまでおよんだ。

インサイダー取引
企業の内部関係者が、その立場を利用して有価証券を取り引きすること。一般の投資家より先に企業の合併や増資、新製品開発などの未公開情報を得、有価証券を売買するため、不公正取引として問題になっていた。五月三一日、証券取引法改正が公布され、投資家保護の立場から厳しく規制されることになった。

自衛官合祀拒否訴訟
殉職自衛官の夫を、意に反して護国神社に合祀されたキリスト教徒の妻が、その取り消しを国と隊友会山口県連に求めて、昭和四八年に起こした訴訟。憲法が定める信教の自由および政教分離原則を争う裁判となり、原告の主張を認める一・二審の違憲判決に対し、六月一日、亡夫の合祀によって原告の法的利益が侵害されたとは言えないと、最高裁は一転合憲判決を下した。

共同通信社

▶判決の前夜、支援者の集会で挨拶する原告の中谷康子さん。

スーパー三〇一条
アメリカが、過重な貿易赤字の削減をめざして八月二三日に成立させた、米国包括通商法の最大のポイントのひとつ。外国の不公正貿易慣行の除去を目的とした。これに基づき、米国通商代表部は不公正な貿易障壁・慣行を設けている国（優先交渉国）とその対象（優先交渉慣行）を特定。日本は優先交渉国とされ、スーパーコンピュータ、人工衛星、木材製品が優先交渉慣行に指定された。

コンピュータ・ウイルス
コンピュータを混乱させる機能を持つプログラム。いたずらを目的に作成されることが多い。一九七〇年代に米国で発生、一九八八年四月にはNASAのコンピュータが汚染され問題になった。日本では九月一三日、パソコン通信網、PC・VANに侵入されたのが初めて。ウイルスを検出するためのワクチン・プログラムも開発されたが、新種のウイルスが次々と出現するため、問題は解決していない。

夫婦別姓
結婚後も夫婦がそれぞれ別の姓を持ち続けること。一〇月一五日、東京で「民法を改正して夫婦別姓を求める集会」が開かれ、「夫婦は婚姻の定めるところに従い、夫または妻の氏を称する」とする民法七五〇条改正への声が高まり始めた。平成二年の総理府世論調査で、夫婦同姓・別姓選択制を希望する意見が三〇パーセント近くもあり、法制審議会民法部会などで検討が始まっている。

M&A
企業の合併・買収の略。一九八〇年代に入って、経営規模拡大や企業体質改善を短期間に実現するリストラ（事業の再構築）の手段として米国でさかんに行われるようになった。それが「金余り」日本にも飛び火、野村証券が一〇月一九日、米投資銀行と合弁で日本初のM&A専門会社「野村企業情報」を設立した。また外国企業を合併・買収する企業が続出し、日本の海外での不動産投機とともに不興をかった。

過労死
サラリーマンなどが働きすぎで死ぬこと。四〇から五〇歳代に多いが、三〇歳代、女性にも広がり始めた。ほとんどが脳出血や心筋梗塞による突然死。一一月二二日、過労死で家族を亡くした遺族ら一五人が、各地の労働基準監督署で一斉に労災の集団申請を行った。過労死の認定件数は前年二一、この年二九、翌年三〇件。仕事との因果関係の立証がむずかしいが、平成七年、認定件数はそれまでの五年間の二倍に増加した。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1988
CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター　山口至剛
表紙デザイン　山口至剛デザイン室（茂村巨利）＋渡邉裕
本文レイアウト　デザインオフィス八起き
編集協力　有エービーシープレス　株カマル社　株コミュニケーションハウス・ケースリー　シド・プロ　有マックス　有マライカ
飯田守　小原伸夫　鍵和田良輔　菊池美優貴　小松邦宏　張替政展
藤森雅弘　結城順　吉田忠正

●写真協力
芥川仁　今枝弘一　ラマザン・オズチュルク　かわぐちかいし　小橋川共男　但馬一憲　寺越友枝　ロバート・ニコルス　橋本紘英
伸三　松本逸也
朝日新聞社　岩波書店「世界」編集部　雲母社
AP　オリオン・プレス　共同通信社　京都新聞社　AFP　NHK
トSIPA　中日新聞社　徳間書店　日刊スポーツ　サンテレフォト
ANA通信社　PPS　フォート・キシモト　Black Star　馬力P
報知新聞社　毎日新聞社　ユニフォト・プレス　読売新聞社
ロイター　WWP
沢井プロダクション　松竹　創映新社　東芝EMI　日本コロムビア
ホーネンコーポレーション　本田技研工業　ライトヴィジョン
奈良県立橿原考古学研究所

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀
第61号 4月28日（火）発売 定価560円
毎週火曜日発売　講談社　本体533円
1990［平成2年］

●特集
「勅語」が「お言葉」にかわって〝平成〟の「即位の礼」挙行！／日本人初の宇宙旅行は大成功！　秋山豊寛さんの九日間の〝旅〟／日本列島に「一・五七ショック」　ついに少子化社会がやって来た！／戦後四五年間の〝分断〟に終止符！　東西ドイツ統一の「理想と現実」
●ニュース・ファイル
フォト＋日録で再現する365日…南ア政府、マンデラ釈放（2月11日）／連続射殺事件・永山則夫被告の死刑が確定（4月17日）／神戸の女子高生、校門で圧死（7月6日）／ロッテの村田兆治、引退（10月13日）／雲仙・普賢岳、二〇〇年ぶりに噴火！（11月17日）／沖縄県知事に革新の太田昌秀が当選（11月18日）
●人物クローズアップ
アルベルト・フジモリ、ペルー大統領に！
●決定的瞬間
フセイン、クウェートへ侵攻開始！
●美の出会い
〝天才〟アラーキーの心の一冊
●女たちの肖像…〝五輪の申し子〟橋本聖子／勝者・敗者…鈴木亜久里、初の表彰台！／証言・あの日この日…松島トモ子、井口時男／「現場」を歩く…波野村、「オウム」の跡地利用／20世紀博物館…五十嵐健治記念洗濯資料館（東京）／外から見たNIPPON…沈黙を破った張学良
●ベストセラー…『「NO」と言える日本』／スターと名場面…マンガの映画化「少年時代」「櫻の園」／モノ語り'90…「鉄骨飲料」「キリン一番搾り」

日録20世紀専用バインダー
高級感あふれる特製バインダーを用意しました。「日録20世紀」を10冊ずつ年代順にバインダーにとじてそろえれば、「20世紀」ビジュアル百科のできあがり。10年ごとに分類するためのシールも添付しました。取りはずしは簡単で、整理にも便利、じょうぶな仕上がりです。あなたの書斎を飾るホーム・ライブラリーとして、永く保存してお楽しみください。バインダーは1部1300円（税別）。全国の書店でお求めください。

■既刊好評発売中（既刊60冊！ 1930・1940・1950・1960・1970年代がそろいました）

一九三〇年代

一九四〇年代

一九五〇年代

一九六〇年代

第15号1966［昭和41年］　第16号1967［昭和42年］　第17号1968［昭和43年］　第18号1969［昭和44年］　第4号1970［昭和45年］

一九八〇年代　最新刊

■今後の刊行予定
▶第62号1921［大正10年］5月12日発売
皇太子、欧州巡遊●安田善次郎と原敬、暗殺●柳原白蓮の恋と出奔●チャップリンの「キッド」
▶第63号1922［大正11年］5月19日発売
ツタンカーメンの墓発見！●ワシントン軍縮会議の衝撃●児童雑誌ブーム●シベリア「極東共和国」
▶第64号1924［大正13年］5月26日発売
皇太子、ご成婚●宮沢賢治「春と修羅」でデビュー●「排日移民法」成立！●孫文、最晩年の輝き！
▶第65号1925［大正14年］6月2日発売
ラジオ放送、始まる！●「治安維持法」制定●「東京六大学野球リーグ」戦スタート●「ライカ」誕生
▶第66号1926［昭和元年］6月9日発売
大正天皇崩御と〝元号誤報〟騒動●「同潤会アパート」出現●「福岡連隊事件」●R・ヴァレンチノ急逝！
▶第67号1927［昭和2年］6月16日発売
蔵相のひとことで〝失言恐慌！〟●芥川龍之介、自殺●「北京原人」、出土！●「英雄」リンドバーグ

定価560円
郵便番号112-8001 東京都文京区音羽2-12-21

雑誌　23711-5/5
Ⓛ-2001/1/1
T1123711050566

印刷　凸版印刷株式会社　製本　大村製本株式会社